31
194
禁電

司法省藏版

獨乙治罪法

明治十五年六月印行

完

東京帝國大學圖書館藏

司法省藏版

獨乙治罪法

治十五年六月印行

獨乙現行治罪法

目次

第一卷　總則　丁數

第一款　裁判所ノ權限　一一

第二款　裁判所ノ管轄　一一

第三款　裁判所參員ノ除職及ヒ除廷　三

第四款　裁判所ノ判決及ヒ其申渡　九

第五款　期限及ヒ復判　一五

第六款　證人　一九

第七款　鑑定人及ヒ現證　二一

第八款　物件押收及ヒ搜索　三四

第九款　收監及ヒ拘執　四三

　　五四

東京圖書館藏

第十款　被罪者ノ推問　六六
第十一款　辯護　六八
第二卷　初審裁判ノ手續　七五
第一款　公訴　七五
第二款　公訴ノ豫備　七六
第三款　裁判所ノ豫審　八四
第四款　本審開始ニ就テノ裁決　九三
第五款　本審ノ豫備　一〇〇
第六款　本審　一〇六
第七款　陪審裁判所ノ本審　一三一
第八款　缺席裁判　一四八
第三卷　伸寃訴　一五七
第一款　總則　一五七
第二款　歎訴　一六〇
第三款　控訴　一六四
第四款　上告　一七二
第四卷　確定裁判ノ再吟味　一八五
第五卷　吟味ニ被害者ノ干預スル事　一九五
第一款　私訴　一九五
第二款　副訴　二〇六
第六卷　特權裁判　二一一
第一款　區判事ノ即決裁判　二一一
第二款　警察上刑令後ノ裁判手續　二一四
第三款　租稅及ヒ雜稅徵收規則ヲ犯害スル所行ノ

裁判手續
第四款　兵役義務ヲ逃レタル不在人ニ對スル裁判手續　二一七
第五款　沒收及ヒ財產押收ニ就テノ手續　二二二
第七卷　刑ノ決行及ヒ裁判費用　二二七
第一款　刑ノ決行　二三一
第二款　裁判費用　二三一
二三九

目次畢

獨乙現行治罪法 獨乙官版

今村研介譯

千八百七十七年二月一日

天祐ヲ承ケタル獨乙帝普國王朕ウヰルヘルム上院及ヒ民選議院ノ承諾ヲ經タル後獨乙帝國ノ名ヲ以テ左ノ條則ヲ布告ス

第一卷　總則

第一款　裁判所ノ權限

第一條

裁判所ノ權限ハ裁判所ノ章程ニ載スル所ノ法例ニ據テ定ム

第二條

一　數罪俱發スル各件等位ヲ異ニスル諸裁判所ノ權限ニ屬スル時ハ其上

位ノ裁判權ヲ有スル裁判所ニ於テ之ヲ連合スルヲ得

都合ニ依リ此裁判所ノ決議ヲ以テ連合セシ各件ヲ支分スルヲ得

第三條

數罪俱發トハ一人ニテ數件ノ罪ヲ犯シ或ハ一罪ニ就キ數人即チ主犯、從犯、犯後加功者（犯罪後其人ヲシテ刑ヲ免カレシメ或ハ重輕罪ニ因テ得タル利益ヲ確有セシメンカ爲メニ出テ毫モ己レヲ利スルノ意無キ助成者ヲ謂フ）盜贓係累者（固ヨリ己レヲ利スルノ目的ニ出テ盜犯ヲシテ之ヲ隱蔽買收收當シ或ハ我カ有ト爲シ或ハ他人ニ賞與シテ助手ヲ爲ス者ヲ謂フ）等ノ犯罪俱ニ發覺スル時ノ一トス

第四條

數罪俱發スル各件ノ連合支分ハ吟味（吟味トハ訴訟ヲ受理スルヨリ判決スル迄ノ處分ニテ悉ク治罪法中ノ手續ニ從テ施行スル者ヲ謂フ）開始ノ後ト雖モ檢事局或ハ被告人ノ申立ニ依リ或ハ申立ヲ待タス裁判所ノ決議ヲ以テ之ヲ命スルヲ得

此決議ノ權ヲ有スル者ハ他ノ關係セル諸裁判所ヲ已レノ管轄區內ニ統屬スル裁判所トス若シ此裁判所無キ時ハ普通上位ノ裁判所ニ於テ決議ヲ爲ス者トス

第五條

連合ノ時間ニ限リ上位ノ裁判所ノ權ニ屬スル事件ニ付テノ手續ヲ以テ其他ノ事件ニ付テノ規則ト爲ス

第六條

裁判所ハ吟味ノ各場合ニ就テ裁判權ノ當否ヲ案檢ス可シ

第二款　裁判所ノ管轄

第七條

裁判所ノ管轄ハ犯罪ノ地ノ管轄裁判所ニ確定スル者トス

第八條

裁判所ノ管轄ハ亦出訴ノ際被告人ノ居住スル地ノ管轄裁判所ニ確定ス被告人若シ居住地ヲ獨乙帝國內ニ有セサル時ハ平常ノ寄留地ニ從テ定メ寄留地不明ナル時ハ最終ノ居住地ニ從テ定ム

第九條

外國ニテ罪ヲ犯シ第八條ニ從ヒ裁判所ノ管轄ヲ確定ス可カラサル時ハ犯者ヲ捕縛セル地ノ管轄裁判所ニ定ム若シ捕縛セサル時ハ帝國高等裁判所ニ於テ之ヲ確定ス

內國ニテ罪ヲ犯セシ時ハ其所行ニ因リ或ハ其居住地ニ從ヒ其管轄ヲ確定ス可カラサル時モ亦帝國高等裁判所ニ於テ確定ス

第十條

外國內或ハ航海中獨乙船內ニテ罪ヲ犯シタル時ハ本國（犯者ノ生國ヲ謂フ例之ハ聯邦中ノ一國即チプロイスサッキンバユールン等ノ國ヲ指ス）港ノ管轄裁判所或ハ犯罪後始テ着シタル獨乙國（聯邦全國ヲ指ス）港ノ管轄裁判所ニ定ム

第十一條

治外法權ノ權利ヲ有スル獨乙人及ヒ外國內ニテ任用セラレシ獨乙國若クハ聯邦各國ノ官吏ハ其本國ニ有スル居住地ニ從ヒ裁判所管轄ヲ定ム若シ其住地ヲ有セサル時ハ本國內ノ首府ヲ裁判所管轄トス又其首府ヲ數箇ノ裁判所ニ分轄スル時ハ住地ト定ム可キ管轄區ハ一般ノ規則ニ從ヒ各國ノ司法廳（聯邦內ノ各國ヲ謂フ）ニ於テ之ヲ定ム

此定規ハ臨時選任領事（領事ハ本國政府ヨリ特命ヲ以テ派遣スレ𪜈此領事ハ外國ニテ臨時ニ命スル者トス例之ハ在横濱ノ商人中ヨリ臨時選任シテ横濱領事ト爲スカ如シ）ニハ施行ス可カラス

第十二條

第七條乃至第十一條ノ定規ニ從ヒ裁判權ヲ有スル數箇ノ裁判所中ニテ特權ヲ有スル者ハ最初ニ吟味ヲ開始セシ裁判所ナリトス

然レ𪜈普通上位ノ裁判所ハ其特權ヲ有スル裁判所ヨリ他ノ裁判所ニ吟味及ヒ判決ヲ轉移スルヲ得

第十三條

數罪俱發ノ各件第七條乃至第十一條ノ定規ニ從ヒ諸裁判所ノ權內ニ屬スル時ハ各件ヲ分テ其裁判權ヲ有スル諸裁判所ニ裁判管轄ヲ屬セシム

數罪俱發ノ各件諸裁判所ニ屬スル時檢事局ヨリ連合ノ申立ヲ爲シ諸裁判所皆一致スレハ各件ヲ一切或ハ其幾部ヲ連合シテ其中一箇ノ裁判所ニ屬セシムルヲ得若シ此一致ヲ爲サスシテ檢事局或ハ被告ヨリ更ニ連合ヲ申立タル時ハ其申立タル裁判所ニ連合ヲ爲シ得可キカ又ハ孰レノ裁判所ニ連合ス可キカニ就テハ普通上位ノ裁判所ニ於テ之ヲ決定ス

第十四條

數箇ノ裁判所ノ間ニ權限ノ論起リシ時ハ吟味及ヒ判決ヲ爲ス可キ裁判所ヲ普通上位ノ裁判所ニ於テ之ヲ決定ス

第十五條

裁判權所屬ノ裁判所ニ於テ各場合ニ際シ判事ノ職務執行上法律及ヒ事蹟ニ關スル處ノ妨害有ルカ或ハ同裁判所ニ於テ吟味ヲ爲スニ依テ公安ニ關スル危害ヲ生ス可キ恐レ有ル時ハ其最近上位ノ裁判所（其等位最モ近ク相次ク謂フヲ謂フ）ニ於テ吟味及ヒ判決ヲ他ノ同位ノ裁判所（裁判權所屬ノ裁判所ト同位ナルヲ謂フ）ニ轉移セサル可カラス

第十六條

被告人所屬裁判所ヲ失ヒタルノ時轉移裁判所ノ權限非屬ノ不服ヲ申立ントスルニハ判事豫審（判事豫審ト豫審裁判所ニテ判事ノ行フ下調ヲ謂フ）又ハ檢事豫審（豫審ト譯スル者ハ專ラ檢事

局ニテ行フ下調ニテ時ニ依テ判事臨検スルモ實際調ヲ為ス者ハ検事ニテ判事ハ之ヲ監視スルノミ故ニ今判事豫審ト検事豫審ヲ以テ之ヲ區別ス

サル時ハ本審中本審開始ノ決議ノ讀聞セ迄ニ申立ツ可シ

第十七條

判事豫審ノ權限ノ決定ニ因テ本審ノ權限モ亦確定ス

第十八條

裁判所ハ本審開始ノ後被告ヨリ不服ヲ申立タル時ニ限リ轉移裁判所ノ權限非屬ヲ申渡スヲ得本案ハ第十六條ニ抵觸スルニ似タレ𪜈後ノ豫審幷ニ本審ノ條ヲ參考スレハ自カラ明瞭ナリ

第十九條

數箇ノ裁判所中其一箇ノミニ裁判權ノ屬スル時數箇ノ裁判所ヨリ裁判權非屬ノ裁決ヲ申渡クル時ハ普通上位ノ裁判所ニ於テ裁判權所屬ノ裁判所ヲ指示ス但シ裁決ノ申渡ニ對シ復タ不服訴ヲ提起ス可カラサル時ニ限ル者トス裁判所ノ等位若クハ事件ニ因リ其裁決ニ對シ不服ヲ申立得サル者有リ後ノ不服訴ノ條ヲ參考ス可シ

第二十條

裁判權非屬ノ裁判所ニテ行ヒタル吟味ノ手續ハ其權非屬タリト雖モ無効ノ者ト為スヲ得ス

第二十一條

遲延ノ為メ危害ヲ生ス可キ事件ハ裁判權非屬ノ裁判所ト雖モ之ヲ吟味ス可シ

第三款　裁判所參員ノ除職及ヒ除廷

除職ハ官ヨリ法律ヲ以テ參員ノ職務ノ執行ヲ除クヲ謂ヒ除廷ハ検事局及ヒ原被告ヨリ法律ニ從ヒ參員ヲ忌廷ヨリ除クヲ謂フ

第二十二條

一〇

判事ハ左ノ場合ニ在テハ法律上其職務執行ヲ除セラルヽ者トス

第一　判事身ニ犯罪ノ害ヲ被リタル時

第二　判事現今或ハ以前被告者ノ本夫若クハ後見人ナル時

第三　判事被告者或ハ被害者ト尊屬卑屬中ノ血族ノ者婚族ノ者若クハ養子ニ因リ卑屬ニ結了セシ者或ハ旁親中三等ニ至ル迄ノ血族ノ者若クハ二等ニ至ル迄ノ婚族ノ者タル時但シ婚族ノ原因タル結婚ノ已ニ解除スルト否トヲ問ハス

第四　判事若シ罪件ニ因リ檢事局ノ官吏警察吏被害者ノ代人或ハ辯護人ト爲リテ其職ヲ行ヒタル時

第五　判事罪件ニ就テ證人若クハ鑑定人トシテ推問ヲ受ケタル時

第二十三條

伸寃訴（不服訴ノ總稱第三百三十八條乃至第三百九十八條ニ因リ提起セシ不服訴ノ裁決ニ方リ之ニ參與セシ判事ハ法律上ニ於テ上位裁判所ノ裁決ノ際ニ參與スルヲ許サス）

豫審判事ハ其執行セシ豫審事件ニ就テハ判決裁判所ノ參員ト爲ルヲ得ス又本審ヲ開カスシテ行フ刑事局ノ裁決ニ參與スルヲ得ス

刑事局ノ本審ニハ本審開始ノ決定ニ參與セシ判事ノ中二名以上ハ參與スルヲ得ス就中檢事局ノ中立ニ就テ具申ヲ爲シタル判事ハ參與ス可カラス

第二十四條

法律上ニ於テ判事ノ職務執行ヲ除キタル場合幷ニ依怙ノ恐レ有ル時ニ於テハ判事ヲ除廷スルヲ得

除廷權者ニ於テ判事偏頗有ルノ疑念ヲ辯明ス可キ理由有ル時ハ依怙ノ恐レ有ル者トシテ除廷ス

除廷ノ權ハ檢事局私訴人（私訴トハ公訴人（即チ檢事）ニ依ラスシテ人民ニ訴フル者ヲ謂フ例之ハ身體折傷及ヒ誘等ノ如キ場合第四百十四條乃至第四百三十四條ヲ參考ス可シ）及ヒ被告人ニ屬ス又判決ニ參與スル裁判所ノ參員ハ官ノ望ニ從ヒ除廷權者ヲ指名ス可シ

第二十五條

依怙ノ恐レ有ル爲メノ判事ノ除廷ハ初審裁判所ノ本審中ニ在テハ本審開始決定ノ讀聞セ迄ニ限リ控告（不服訴ノ一名第三百五十四條乃至第三百七十三條參考）及ヒ上告（不服訴ノ一名第三百七十四條乃至第三百九十八條參考）ノ本案中ニ在テハ只罪件ノ讀聞セ迄ニ限リ之ヲ許ス

第二十六條

除廷ノ請願書ハ判事ノ所屬裁判所ニ出ス可シ又裁判書記ノ前ニテ陳述シ口供ニ記取セシムルヲ得

除廷ノ理由ハ信憑確實爲ラサル可カラス但シ信憑ヲ保スル爲メニ誓約ヲ爲スヲ許サス信憑ノ實否ハ除廷セラレシ判事ノ立證ニ從フ者トス

除廷セラレシ判事ハ除廷ノ理由ニ就テハ必ス辯明ヲ爲サヽル可カラス

第二十七條

除廷ノ請願ハ被除廷者ノ所屬裁判所ニ於テ之ヲ裁決ス若シ被除廷者ノ退去スルカ爲メニ其裁判所ニテ裁決シ能ハサル時ハ其最近上位ノ裁判所ニ於テ裁決ス

豫審判事或ハ區判事ヲ除廷スル時ハ地方裁判所ニ於テ除廷ノ請願ヲ裁決ス若シ被除廷者其除廷ノ請願ヲ理由有リト承認スル時ハ別ニ裁決ヲ爲スヲ要セス

第二十八條

除廷ノ請願ヲ理由有リトシテ申渡ス裁決ニハ伸寃訴ヲ爲スヲ許サス其請願ヲ理由無シトシテ申渡ス裁決ニハ即時歎訴（歎訴ハ不服訴ノ一名第三百四十六條）ヲ爲スヲ得（乃至第三百五十三條參考）

判決判事ヲ除廷スルノ請願ヲ理由無シト申渡ス裁決ニ對スル不服訴ハ單ニ是ノミヲ以テ爲スヲ得可カラスシテ判決（判決トハ吟味濟ノ上ニテ法律ニ從ヒ裁決スル者ヲ謂フ）ヲ待テ之ト共ニ歎訴スルヲ得ル者トス

第二十九條

被除廷判事ハ必ス遲滯ス可カラサル吟味ニ限リ除廷請願ノ裁決迄ハ猶ホ執行ス可キ者トス

第三十條

除廷請願ノ裁決權ヲ有スル裁判所ハ假令ヒ其請願ヲ爲サスト雖モ判事ヨリ其除廷ノ理由ヲ明解シ得可キ事實ヲ申立ツル時或ハ他ノ事由ニ因テ法律上除職ス可キヤ否ヤノ疑ヒヲ生スル時ハ亦之カ裁決ヲ爲ス可シ

第三十一條

此款中ノ條則ハ參審（裁判所章程參考）及ヒ裁判書記ニモ亦施行ス

參審ノ除職或ハ除廷ハ區判事（裁判所章程參考）之ヲ裁決ス又裁判書記ノ除廷ハ其所屬裁判所若クハ所屬ノ判事裁決ス

第三十二條

第二十二條ノ條則ハ亦陪審ニ施行ス可シ

第四款　裁判所ノ判決及ヒ其申渡

第三十三條

裁判所ノ判決ヲ本審中ニ爲ス時ハ關係者（原被代人ヲ辯護人等）ヲ訊問セシ後又本審外ニテ爲ス時ハ檢事局ヨリノ口述若クハ書面ノ具申ニ從ヒ申渡ス

可シ

第三十四條

伸寃訴ニ因リ不服ノ申立ヲ爲シ得可キ判決幷ニ申立ヲ却下スル判決ハ其理由ヲ詳記ス可シ

第三十五條

判決ヲ受クル人ノ目前ニテ申渡ス判決ハ口述ニテ申渡ス者トス但シ請ニ從ヒ判決書ノ謄本ヲ付ス可シ

其他ノ判決申渡ハ判決書ヲ交付ス

收監セシ人ニハ交付セシ判決書ヲ請ニ從ヒ讀聞ス可シ

第三十六條

交付或ハ決行ヲ要スル判決書ハ之ニ關スル事件ヲ處分スル檢事局ニ渡ス可シ但シ裁判所ノ事務又ハ會議規則ニ關スル判決ニハ施行ス可カラス

豫審判事及ヒ區判事ハ諸種ノ交付並ニ決議及ヒ命令ノ決行ヲ自カラ爲スヲ得

第三十七條

刑事ノ交付手續ニハ亦訴訟法交付條則ヲ施行ス可シ

第三十八條

證人及ヒ鑑定人ヲ召喚スル職權ヲ有シ刑事ノ吟味ニ關與スル人ハ其召喚狀交付ヲ裁判書記ニ命ス可キ者トス

第三十九條

檢事豫審判事豫審及ヒ申渡セシ刑ノ決行ノ手續ニ於テハ各國司法廳ノ命令ニ據リ交付指令ニ就テ簡便ノ方法ヲ施行スルヲ得

第四十條

未タ本審召喚狀ヲ渡サヽル被告人ニ對シ判決書ヲ交付スルニハ獨乙帝國內ニテ交付スル條則ヲモ行フヿヲ得ス又豫メ交付ノ無効ナルヲ察知スル時ハ其判決書ノ言意ヲ獨乙國若クハ外國ノ新聞紙ニ記載公告シ而シテ其新聞紙發發後二週間ヲ經レハ交付ノ効有ル者トス又其新聞紙ヲ選取スルハ交付ヲ爲ス可キ官吏ノ權內ニ屬ス

本審召喚狀ヲ豫メ交付シタル時獨乙國內ノ規則ニ從テ交付スルヲ得可カラサル時ハ初審裁判所ノ裁判掲示板ニ交付ス可キ書類ヲ二週間貼附スレハ即チ確定ノ者ト爲ス但シ其判決及ヒ決議ノ一部分ノミヲ掲示スルニ止マル

第四十一條

檢事局ニ對スル交付ハ其交付ス可キ本書ヲ觀示スルヲ以テ足レリトス若シ此交付ト同時ニ刑期ノ始マル時ハ檢事ハ觀示ノ日ヲ本書中ニ

記セサル可カラス

第五款　期限及ヒ復判（復判ハ一旦終結セシ前決ヲ判決セサル以前ニ復スルヲ謂フ）

第四十二條

日ヲ以テ確定スル期限ノ計算ハ其起始ス可キ期日若クハ事故有レハ其終リタル日ヲ期日內ニ算入ス可シ

第四十三條

週若クハ月ヲ以テ確定スル期限ハ其名稱（即チ週若クハ月）或ハ數（即チ週數月數）ニ從ヒ期限ノ末週又ハ末月中其起始ノ日ニ回應スル日ヲ以テ期限ノ終リトス

若シ期限終ルノ日日曜日又ハ一般ノ休日ニ當レハ其次ノ常日ノ經過スルヲ以テ終リトス

第四十四條

期限懈怠ニ對シ復判ヲ要求スルヲ得可キ者ハ其申立者疾病事故有ルニ因リ期限ヲ遵守スルヲ妨害セラレシ時ニ限ル但シ其事故トハ情實已ムヲ得サルニ出テ判決書ノ交付ヲ知了シ得サル時トス

第四十五條

復判ノ請願ハ故障消除ノ後一週內ニ是ヨリ先キ期限中申立ツ可キ所屬裁判所ニ懈怠理由ヲ記載シ其證憑ヲ付シテ出ス可シ

其請願ト同時ニ懈怠セシ手續ヲ執行セサル可カラス

第四十六條

此請願ノ裁決ハ定期中其手續ヲ爲シタル時之ヲ裁決スルノ權有ル裁判所ニ屬ス

請願ヲ受理スル裁決ハ不服訴ヲ許サス

請願ヲ却下スル裁決ハ即時歎訴ヲ爲スヲ得

第四十七條

復判ノ請願ヲ爲スモ裁判所ノ判決決行ヲ停止スルノ効無キ者トス然レトモ裁判所ハ其決行ノ延期ヲ命スルヲ得

第六款　證人

第四十八條

證人ノ召喚狀ニハ法律上不參ノ罰ヲ指示ス可シ

陸海常備軍ニ屬スル軍人ヲ證人トシテ召喚スル時ハ之ヲ軍務廳ニ依賴ス可シ

第四十九條

獨乙帝國宰相各國ノ諸卿共和連合府（共和「リヘック」ハハブールグ「ブレーメン」ノ三府ヲ謂フ）ノ議院ノ議員獨乙帝國高等諸廳ノ長官等ハ其官署所在ノ地ニ就テ推問ス可シ若シ其他ノ地ニ寄留スル時ハ其宿所ニ於テス

上院ノ議員（獨乙帝國上院ノ議員ハ各國ハ議院所在ノ地ニ寄留スル時ハ政府ヨリ特派スル者ナリ）ハ其地ニ就テ推問ス可シ民選議院ノ議員ハ其會議期限中ニシテ議院所在ノ地ニ寄宿スル時ハ亦其地ニ就テ推問ス

若シ此規則ヲ行ハサル時ハ左ノ許諾ヲ要ス即チ

（イ）帝國宰相ニ在テハ皇帝ノ許諾

（ロ）各國ノ諸卿及ヒ上院ノ議員ニ在テハ各國君主ノ許諾

（ハ）共和聯合府ノ議院ノ議員ニ在テハ其議院ノ許諾

（ニ）此他本條ニ記載セル官吏ニ在テハ其直管長ノ許諾

（ホ）民選議院ノ議員ニ在テハ其議院ノ許諾

第五十條

規則上ノ召喚ヲ受ケテ出廷セサル證人ハ其不參ノ爲メ起生セシ費用及ヒ三百「マルク」（一「マルク」カ二十五錢ニ當ル）大概我以下ノ罰金ヲ科ス若シ此金ヲ徵收

シ得可カラサル時ハ六週間以內ノ刑ニ處シ或ハ證人ヲ拘引スルヲ得又數回出廷セサルノ場合ニ在テハ其刑ヲ再ヒ科スルヲ得

若シ證人ノ不參充分ニ宥免ス可キ理由有ル時ハ刑及ヒ費用ノ判決ヲ廢止ス又後日ニ至リ其宥免ス可キ充分ノ理由發生セシ時ハ證人ニ申渡シタル判決ヲ取消ス者トス

此定規ノ職權ハ亦豫審判事或ハ豫審關係中ノ區判事竝ニ委任及ヒ囑託判事ニ屬ス

陸海常備軍ニ屬スル軍人ニ對スル刑ノ判決及ヒ其決行ハ之ヲ軍事裁判所ニ依賴シ軍人ノ拘引ハ之ヲ軍務廳ニ依賴ス

第五十一條

立證不肯ノ權ヲ有スル者ハ即チ左ノ如シ

第一　被告人ノ許婚者

第二　被告人ノ配耦者但シ婚族ノ原因タル結婚ノ解否ヲ問ハス

第三　被告人ト尊卑屬ノ血族ノ者若クハ婚族ノ者或ハ養子ニ因テ卑屬中ニ結了セシ者或ハ旁親中三等ニ至ル迄ノ血族ノ者或ハ旁親二等ニ至ル迄ノ婚族ノ者但シ結婚ノ解否ヲ問ハス

以上ノ人ハ各推問ノ前ニ其立證不肯權ニ就テノ理由ヲ辯明セサル可カラス又推問ノ間ハ其棄却セシ權ヲ復タ執行スルヲ得

第五十二條

其他立證不肯ノ權ヲ有スル者ハ即チ左ノ如シ

第一　教導師ハ其教導ヲ執行スル時之ニ實情ヲ明告シタルヿニ就キ

第二　被告ノ辯護人ハ其辯護ノ性質上ニ於テ之ニ實情ヲ明告シタルヿニ就キ

第三　代言人及ヒ醫師ハ其職業施行ノ際之ニ實情ヲ明告シタルヿニ就キ

第二第三ニ記載セシ人ハ其默秘ノ義務ヲ解除シタル時ハ立證ヲ肯セサルヲ得ス

第五十三條

官吏ハ己ニ解職スト雖モ其官ニ關シ默秘ス可キ義務有ル事情ニ就テハ其職務本廳或ハ其最後ノ職務本廳ノ許諾ヲ得ルニ非サレハ證人トシテ推問スルヲ得ス而シテ帝國宰相ニ在テハ皇帝、各國ノ諸卿ニ在テハ各國ノ君主、共和聯合府ノ議院ノ議員ニ在テハ議院ノ許諾ヲ要ス

證憑ヲ明告スルニ因リ爲メニ帝國或ハ聯邦中一國ノ安寧ヲ妨害スル時ニ限リ前項ノ許諾ヲ肯セサルヲ得

第五十四條

各證人ハ答辯ヲ爲スニ因テ其身或ハ第五十一條中第一乃至第三ニ記載セシ人ノ一名ニ刑事裁判上ノ處刑ヲ受ク可キノ危險ヲ發起スル時ハ立證ニ就テノ問ニ答辯セサルヲ得

第五十五條

證人ハ第五十一條第五十二條第五十四條ニ記載シタル場合ニ在テ立證不肯ノ原由ト爲ス事實ニ就テハ判事ノ請求ニ從ヒ之ヲ信認セシメザル可カラス但シ之ヲ信認セシムルニハ誓約上信憑ヲ以テ足レリトス

第五十六條

誓約ヲ要セスシテ推問ヲ爲ス可キ者ハ即チ

第一 推問ノ際十六歲未滿ノ人或ハ知覺缺乏若クハ知覺微弱ノ爲メ誓約ノ本意及ヒ其効用ヲ充分ニ了解シ得サル人

第二 刑法書ノ條則ニ從ヒ證人ト爲リテ誓約上ノ推問ヲ受ク可キ能力無キ人

第三 吟味ノ事件ニ因リ從犯、犯後加功者或ハ盜贓係累者タルノ嫌忌有ルカ或ハ己ニ其判決ヲ受ケタル人

第五十七條

證人ト被罪者トノ間ノ關係ニ於テ證人ハ第五十一條ニ從ヒ立證不肯ノ權ヲ有スル者ナレハ誓約ヲ要セスシテ推問ス可キヤ或ハ誓約ヲ爲サシム可キヤノ決定ハ之ヲ判事ノ意見ニ任ス

此證人ハ推問ノ後亦立證ニ就テノ誓約ヲ拒ムヲ得而シテ其不肯權ノ理由ニ就キ之ヲ辯明セサル可カラス

第五十八條

各證人ハ一人毎ニ推問シ其次ニ推問ス可キ證人ハ同席ニ在ラシム可

カラス

證人ト他ノ證人或ハ證人ト被罪者トノ對質ヲ本審ノ前ニ執行セサレハ訟件ニ危害ヲ加フ可キ時ニ限リ之ヲ豫審中ニ行フヲ許ス

第五十九條

判事ハ誓約ノ前便宜ノ方法ヲ用ヒ誓詞ノ効用ヲ證人ニ明示ス可シ

第六十條

推問ノ前ニ各證人ハ一人毎ニ誓約ヲ爲サシムル可カラス然レトモ特別ノ原由即チ誓約ヲ爲サシムルモ猶ホ嫌忌ヲ懷クノ時ニ在テハ推問結了後迄誓約ヲ猶豫スルヲ得

第六十一條

推問ノ前ニ爲ス可キ誓詞ハ

證人ハ眞智ニ從ヒ至誠ヲ吐露シ決シテ何事ヲモ默秘セス又決シテ何事ヲモ虛加セサル可シ

推問ノ後ニ爲ス可キ誓詞ハ

證人ハ眞智ニ從ヒ至誠ヲ吐露シ決シテ何事ヲモ默秘セサリキ又決シテ何事ヲ虛加セサリキ

第六十二條

誓詞ヲ爲スニハ左ノ語ヲ以テ始ム可シ

予ハ萬通力無限權者タル天帝ニ誓フ

又左ノ語ヲ以テ終ル可シ

希クハ天帝予ニ祥祐ヲ賜ハランヿヲ

第六十三條

誓約ハ誓式文ヲ伴讀シ或ハ獨讀スル者トス又誓約者ハ誓ヲ爲スノ際右手ヲ舉ク可シ

啞人ノ文字ヲ筆記シ得ル者ニハ誓式文ヲ謄寫シテ之ニ手署ヲ爲サシム

啞人ノ文字ヲ筆記シ得サル者ニハ通辯官（解裁判所職務章程ニ詳カナリ）ノ介助ニ依リ誓約セシム

第六十四條

此誓式ニ代フルニ宗教上ノ誓式ヲ以テスルヿヲ法律上ニ於テ明許スル教會ノ徒ニ在テハ其教會ノ誓式ニ從ヒ之ヲ朗讀スル時ハ法律上ノ誓式ヲ行ヒタル者ト同視ス

第六十五條

證人ノ誓約ハ本審中ニ之ヲ行フ者トス但シ第二百三十三條ノ定規ハ此限ニ在ラス

證人本審中ニ出廷シ得可カラサルヿヲ豫知スルカ或ハ里程遠隔ノ爲メニ出廷シ得難キカ或ハ正誠ノ供述ヲ得ルカ爲メニ誓約ヲ要スル時ハ判事豫審中ト雖モ亦誓約ヲ爲サシムルヲ得

檢事豫審中ニ誓約ヲ爲サシムルヲ許ス者ハ其遲延スルカ爲メニ危害ヲ起ス可キカ或ハ公訴提起ニ關スル事蹟ニ就キ正誠ノ供述ヲ得ルカ爲メニ誓約ヲ要スル時ノミニ限ル者トス

右三項ノ場合ニ於テ誓約ヲ爲サシメタル時ハ其理由ヲ調書中ニ明記ス可シ

第六十六條

證人誓約ヲ爲シ推問ヲ受ケタル後其豫審中或ハ本審中ニ於テ再ヒ推問ヲ受クル時ハ再誓ヲ爲サシムルヿ代リニ前ニ爲シタル誓約ノ正否ヲ問ヒ之ニ因テ其口供ヲ確實ナラシムルヲ得

第六十七條

推問ハ先ツ證人ノ氏名年齢宗旨身分營業及ヒ住所ヲ問フ可シ又必要ノ場合ニ在テハ證人ニ訟件ニ就キ信認スル處ノ情況殊ニ證人ト被罪者或ハ證人ト被害者トノ關係如何ヲ問ヒ付ス可キ者トス

第六十八條

證人ハ其推問ヲ受クル事件ニ就テ了知スル處ノ事由ヲ順序ニ從テ申述ス可シ又推問ヲ始ムル前ニ吟味ノ事件ヲ明示シ若シ被罪者出廷シタル時ニ於テハ其人ヲモ指示ス可シ

口供ノ明白周備ナルヿ及ヒ證人ノ了知スル處ノ事由ヲ推窮スルヲ要スル時ハ其他ノ問ヒモ付ス可シ

第六十九條

法律上ニ於テ不肯ノ理由無クシテ立證或ハ誓約ヲ肯セサル證人ハ其不肯ニ因テ起生セシ費用ノ償及ヒ三百マルク以下ノ罰金ニ處ス若シ

其金ヲ追徵ス可カラサル時ハ六週間以内ノ拘留ニ處ス

又强テ立證ヲ爲サシムル爲メニ拘留ヲ命スルヲ得可シ但シ其期限ハ初審裁判ニ於テ吟味終結ノ時ヲ過ク可カラス亦六箇月ヲ過ク可カラス

違註罪ニ於テハ六週間ヲ過ク可カラス

此定規ノ職權ハ豫審中豫審判事並ニ委任及ヒ囑託判事ニ屬スル者トス

此定規ヲ施行シ終リタル時ハ同豫審中或ハ其犯罪ノ所行ヲ以テ事件トスル他ノ吟味例之ハ豫審ニテ取扱ヒタル犯罪事件ヲ復タ本審ニテ取扱フカ如キ是ナリ中ニ復タ施行スルヲ得可カラス

陸海常備軍人ニ對スル刑ノ裁決及ヒ決行ハ之ヲ軍事裁判所ニ依頼ス可シ

第七十條

判事或ハ檢事局ヨリ召喚セラレタル各證人ハ手數料規則ニ從ヒ時日空過ニ就テノ辨償ヲ官ノ會計局ニ要求スルノ權ヲ有ス若シ旅行ヲ要スル時ハ旅費及ヒ滯在費ノ要償モ亦此規則ニ從フ

第七十一條

聯邦各國ノ君主並ニ其家族及ヒ公爵[ホーヘンツヤルレルン]ノ家族ハ其居所ニ就テ推問ヲ爲ス可キ者トス

此等ノ人ハ誓式文ニ手署ヲ爲シ以テ誓約セシム可シ

又此等ノ人ハ本審ニ就テ召喚ス可カラス但シ其裁判所推問ニ關スル口供ハ本審中ニ朗讀ス可シ

第七款　鑑定人及ヒ現證[判事原被及ヒ證人ノ立證ヲ不充分トスル時ハ自身親ク其證ヲ求ルヲ謂フ]

第七十二條

鑑定人ニ就テハ亦第六款中ノ證人規則ヲ施行ス可シ但シ後條別ニ規則ヲ揭クル者ハ此限ニ在ラス

第七十三條

判事ハ立會ヲ要ス可キ鑑定人ヲ選定シ及ヒ其人員ヲ決定ス可キ者トス

斷案ヲ爲ス可キ科目[醫業或ハ諸種ノ技術等ヲ謂フ]ニ就キ公任ノ鑑定人有ル時ハ他ノ人ヲ選定スルヲ得ス但シ特別ノ事情有テ止ムヲ得サル時ハ此限ニ在ラス

第七十四條

鑑定人ノ除廷モ亦判事ノ除廷ト同一ノ理由トス但シ鑑定人ヲ證人トシテ推問シタル時ト雖モ除廷ノ理由ハ異ナルヿ無シ

除廷ノ權ハ檢事局私訴者及ヒ被罪者ニ屬ス又公任ノ鑑定人ハ特別ノ故障有ルニ非サレハ除廷權者ヲ指名セサル可カラス

除廷ノ理由ハ確實ヲ要ス但シ誓約ヲ爲サシムルヲ得ス

第七十五條

公任ノ鑑定人ハ必要ノ科ニ就テ斷案ヲ爲ス可キ爲メ臨時ニ官ヨリ命セラレタル時或ハ斷案ノ爲メニ必要ナル文學技術若クハ其他ノ業ニ就キ官許ヲ受ケテ營生ヲ爲ス時或ハ其文學技術若クハ其他ノ業ヲ實行スルヿヲ官ヨリ命セラレタル時ハ必ス其定科ヲ遵守セサル可カラス己ニ裁判所ニ於テ斷案ヲ爲シタル鑑定人モ再ヒ斷案ヲ爲スノ義務有ル者トス

第七十六條

鑑定人ハ證人ノ立證不肯ノ權ヲ有スルト同一ノ理由ニテ其斷案ヲ拒ムノ權ヲ有ス又其他ノ理由ヨリ斷案ノ義務ヲ免カルヽヲ得官吏ヲ鑑定人ト爲サントスルニ其本屬廳ニ於テ之ヲ鑑定人トシテ推問スレハ公務上ノ利益ニ害ヲ起生ス可キヿヲ申述スル時ハ其官吏ヲ推問スルヲ得ス

第七十七條

斷案ノ義務ヲ有スル鑑定人出廷セス或ハ斷案ヲ肯セサル時ハ費用ノ償及ヒ三百マルク以下ノ罰金ヲ科ス可シ又數回拒命ノ場合ニ於テハ復タ六百マルク以下ノ罰金ヲ科スルヲ得

陸海常備軍ニ屬スル軍人ニ對スル刑ノ裁決及ヒ決行ハ之ヲ軍事裁判所ニ依頼ス可シ

第七十八條

己ムヲ得サルノ場合ニ限リ判事ハ鑑定人ノ職ヲ行ハサル可カラス

第七十九條

鑑定人ハ斷案ヲ爲ス前ニ左ノ誓ヲ爲ス可シ

鑑定人ハ必要ナル斷案ニ就キ偏頗無ク良智良心ニ順テ其義務ヲ盡サントス

鑑定人ハ其關係ス可キ事件ニ就テ斷案ヲ爲スノ誓約ヲ爲シタル時ハ其職ヲ任スルニ之ヲ以テ足レリトス

第八十條

鑑定人ニハ其望ニ任カセ斷案ニ就テノ豫告ノ爲メニ證人或ハ被告者ヲ推問シテ愈明瞭ナラシムルヲ得

此目的ノ爲メニ鑑定人ニハ證據書類ヲ閲覽シ證人或ハ被告者ノ推問ニ陪坐シ直ニ問ヲ付スルヲ許ス

第八十一條

被告者若シ精神病有テ其實否ヲ斷案スル爲メニ豫告ヲ要スルヲ鑑定人ヨリ申立タル時ハ裁判所ハ辯護人ヲ推問セシ後被告ヲ公立癲狂

院ニ入ラシメ此所ニ於テ診察ス可キヲ命スルヲ得

辯護人ヲ有セサル被告者ハ之ヲ任定ス可シ

此兩項ノ決議ハ即時歎訴ヲ爲スヲ得而シテ歎訴ハ決議決行ヲ延滯スルノ効力ヲ有ス

癲狂院中ニ滯在セシムルハ六箇月ヲ過ルヲ得ス

第八十二條

豫審中ニ在テハ鑑定人其斷案ヲ書面ニ出スカ或ハ口述ス可キカニ就テハ判事ノ命令ニ從フ可シ

第八十三條

判事鑑定人ノ斷案ヲ不充分ナリト思料スル時ハ同シ鑑定人或ハ他ノ鑑定人ニ更ニ斷案ヲ爲スヲヲ命スルヲ得

判事ハ鑑定人斷案申報ノ後之ヲ確定シ復タ斷案スルヲヲ肯セサル時

ハ更ニ他ノ鑑定人ニ命シテ斷案ヲ取ルヿヲ得

重大ノ件ハ專門科官署（例之ハ官立大病院造幣局等ノ如シ）ノ斷案ヲ取ル可シ

第八十四條

鑑定人ハ手數料規則ニ從ヒ時日空過ノ償鑑定人ト爲リタルニ因リ起生スル費用ノ償及ヒ慰勞金ヲ要求スルノ權ヲ有ス

第八十五條

過去ノ事蹟或ハ其情況ヲ推察スル爲メニ證據ヲ取ラントスルニ特別ノ鑑定ヲ要スルニ依リ之ヲ推問スル時ハ此場合ニ限リ鑑定人規則ヲ用ヒスシテ證人規則ヲ用フ可シ

第八十六條

判事現證ヲ取ル時ニハ檢察セシ情況ヲ調書中ニ記入シ其情況ニ從ヒ罪蹟或ハ性質ヲ思料スルニ足ル可キ者ノ有無ヲ詳審爲ラシム可キ者

ト爲ス

第八十七條

判事ノ死體檢視ハ醫員一名立會ノ上ニテ爲ス可ク又死體解剖ハ判事ト醫員二名ノ立會ニテ爲ス可シ而シテ其二名中ノ一名ハ必ス裁判醫員爲ラサル可カラス但シ垂死ノ病ヲ診察シタル醫員ニハ死體解剖ヲ任ス可カラス然レトモ病症經歷ノ辯明ヲ爲サシムル爲メニ其解剖ニ陪席セシムルヲ得

死體檢視ノ際ニハ判事ノ意見ニ從ヒ醫員ノ立會ヲ不要ナリトスル時ハ之ヲ止ムルヲ得

埋葬セシ死體ノ檢視及ヒ解剖ヲ要スル時ハ之ヲ發掘スルヲ許ス

第八十八條

特別ノ故障有ルニ非レハ死體解剖ノ前ニ死者ノ人ト爲リ如何ヲ殊ニ

能ク了知スル人ニ就テ審定ス可シ若シ被告者現在スル時ハ死體ヲ認知セシム可キ爲メニ之ヲ示ス可シ

第八十九條

解剖ハ死體ノ形狀ニ從ヒ成ル可クハ頭腔胸腔及ヒ腹腔ニ及ホサヽル可カラス

第九十條

初生ノ子女ノ死體ヲ解剖スルニ方テハ分娩間、産後生存セシカ或ハ發育ノ彌月爲リシカ假令ヒ彌月爲ラサルモ母體ヲ離レテ成長ス可キヤ否ヤヲ最モ檢察セサル可カラス

第九十一條

中毒ノ疑ヒ有ル時ハ死體中或ハ其他檢出セシ原素ヲ舍密家或ハ專門官署ニ付シテ試檢セシム可シ

判事ハ醫員ノ共力ヲ受ケ或ハ其指揮ニ從ヒ試檢ス可キヿヲ命スルヲ得

第九十二條

貨幣ニ關スル重輕罪ニ際シ已ムヲ得サルノ場合ニ在テハ正貨幣或ハ正紙幣ヲ融通セシムル本署ニ其不正ノ貨幣紙幣ヲ差出ス可シ而シテ該署ハ其贋僞竝ニ如何ナル方法ニ因リ製造セシヤヲ斷案スルヲ要ス」外國ノ貨幣紙幣ハ外國官署ニ代テ獨乙國官署ノ斷案ヲ求ルヲ得

第九十三條

書類ノ正否ヲ驗シ或ハ本人ヲ知ル爲メニ鑑定人ノ立會ニテ書體ノ比較ヲ爲スヲ得

第八款　物件押收及ヒ搜索

第九十四條

吟味ノ爲メニ證據ト爲ル可キ物件或ハ官ニ沒入ス可キ物品ハ之ヲ收置シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ之ヲ保全セサル可カラス

他人ノ權内ニ在テ自由ニ取出シ難キ者ハ之ヲ押收ス可シ

第九十五條

前條ニ記シタル種類ノ物件ヲ保有スル者ハ請求ニ應シ之ヲ差出引渡スノ義務有ル者トス

其保有者若シ請求ヲ肯セサルノ場合ニ在テハ第六十九條中ニ定メタル强制方ニ依テ之ヲ處罰ス可シ但シ立證不肯ノ權ヲ有スル者ニハ其强制方ヲ施行ス可カラス

第九十六條

證據書類其他收置セル書類ノ旨意發露シ之カ爲メニ獨乙帝國又ハ聯邦各國ノ安寧ヲ害ス可キヿヲ本廳上廳ヨリ申渡シタル時ハ裁判所或

ハ其官吏ハ其書類ノ差出引渡ヲ請求スルヲ得ス

第九十七條

第五十一條第五十二條ニ從ヒ立證不肯ノ權ヲ有スル人ト被罪者トノ間ニ往復セシ通信書關係者ノ手中ニ存シテ其人從犯、犯後加功者、盜贓係累者ニ非サレハ之ヲ押收ス可カラス

第九十八條

押收ノ命令ハ判事ニ屬ス但シ遲延スル爲メニ危害ヲ生ス可キ時ハ亦檢事局及ヒ該局ノ補吏ト爲リテ其命令ニ從フ可キ警察吏ニ屬スル者トス

判事ノ命令無クシテ押收ヲ爲スノ際被押收者及ヒ其關係者タル成丁人ノ不在ナル時或ハ其他ノ被押收者ノ不在ナル場合ニ在テ關係者タル成丁人ヨリ押收ニ對シ公然ト不服ヲ申立タル時ハ押收ヲ命スル官

吏ハ三日内ニ判事ノ確定ヲ請ハサル可カラス又被押收者ハ何時ヲ問ハス判事ノ裁決ヲ請願スルヲ得又公訴ヲ提起セサルノ間ニ在テハ其裁決ハ押收ヲ行フ地ノ管轄區判事ノ爲ス者トス

公訴提起ノ後ニ至リ檢事局或ハ警察吏ヨリ押收ヲ行ヒタル時ハ三日内ニ之ヲ判事ニ申立テ押收物品ヲ判事ニ差出シ命令ヲ受ク可シ

兵營(軍艦モ之ニ屬ス)ニ關スル押收ハ之ヲ軍務廳ニ依賴シ常務廳(判事檢事局)ノ請ヒニ因リ其共力ニテ爲ス者トス然レトモ兵營中常人(軍人外ノ人ヲ謂フ)ノミ居住スル場所内ニテ押收ヲ行フ時ハ軍務廳ニ依賴スルヲ要セス

第九十九條

被罪者ニ送致スル郵便書翰及ヒ郵送物並ニ電報ハ之ヲ押收スルヲ許ス又郵便局及ヒ電信局ニモ亦其書翰郵送物及ヒ電報ヲ押收スルヲ許ス但シ該局ニテ押收スル場合ニ在テハ其書翰郵送物及ヒ電報ハ被

罪者ヨリ差立タル物或ハ被罪者ニ送致スル物或ハ吟味ノ爲メニ要用ナリト決定ス可キ事蹟有ル物ノミニ限ル可シ

第百條

押收(第九十九條)ハ判事ニ屬ス若シ遲延ノ爲メニ危害ヲ生ス可シテ吟味ノ事件違註罪ノミニ止マラサル時ハ檢事局ニ於テ押收ノ權ヲ有ス但シ該局ハ其押收セシ物品ヲ直ニ判事ニ差出ス可シ就中書翰及ヒ他ノ郵送物ハ封緘ノ儘ニテ差出ス可シ

檢事局ヨリ命シタル押收ノ物品ハ三日内ニ判事ノ確定ヲ受ケサル時ハ無効ニ屬ス但シ其物品ヲ受取ラサルモ亦同ク無効トス

檢事局ヨリ命シタル押收ニ就キ並ニ其受取リタル書翰及ヒ郵送物ノ開封ニ就テノ裁決ハ其裁判權ヲ有スル判事(第九十八條)ノ爲ス可キ者トス

第百一條

若シ吟味ノ目的上ニ危害ヲ加フ可キ恐レ無キ時ハ直ニ押收規則(第九十九條及ヒ第百條)ノ事件ヲ關係者(原被告代辯人等ヲ謂フ)ニ告知ス可シ

開封ヲ要セサル郵書及ヒ他ノ郵送物ハ直ニ之ヲ關係者ニ還付ス可シ

又開封スト雖モ其郵送物ヲ存留スルヲ要セサレハ之ヲ還付ス可シ

吟味ノ爲メニ存留セシ書翰中不要ノ者有レハ亦注意シテ之ヲ受取ル可キ權者ニ還付ス可シ

第百二條

犯罪ノ主犯、從犯、犯後加功者或ハ盜贓係累者タルノ疑ヒ有ル者ノ家屋及ヒ其他ノ場所ノ搜索並ニ其本人或ハ之レニ關係セル物件ノ搜索ハ一ハ其人ヲ捕縛スルノ目的一ハ證據物ヲ見出ス爲メニ搜索ヲ要スト思料スルノ時ニ執行ス可キ者トス

第百三條

前條ニ記セル外人ニ關シタル搜索ハ被罪者ヲ捕縛スル爲メ或ハ犯罪ノ證跡ヲ追糺スル爲メ或ハ確定ノ物件ヲ押收スル爲メ及ヒ搜索ス可キ場中ニ其人或ハ證跡或ハ犯罪ニ關スル物件ノ存在スルヿヲ決定スルニ足ル事蹟有ル時ニ限ル

然レトモ被罪人ヲ捕縛セシ場所或ハ逃罪中(逃罪中ハ犯者ノ罪ヲ問ヒ被刑ニ處スル期限中ヲ謂フ)被告人ノ徘徊セシ場所或ハ警察監視ヲ受クル人ノ居住止宿スル場所ニハ此制限無キ者トス

第百四條

夜間ニ家屋職業場或ハ保存セル所有物ヲ搜索スルハ現行犯追捕ノ際或ハ遲延ノ爲メニ危害ヲ生ス可キノ際或ハ逃亡犯ヲ再ヒ捕縛スル時ニ限ル

然レトモ此制限ヲ要セサル者ハ警察監視ヲ受クル人ノ居住所或ハ夜間何人ニテモ通行シ得可キ所又處刑ヲ受ケタル人ノ潛匿若クハ聚居スル所或ハ犯罪ニ因テ得タル物件ノ諸蓄場或ハ賭博場若クハ賣淫場ト警察上ニ於テ認了セシ場所ナリトス

夜間トハ四月一日ヨリ九月三十日ニ至ルノ間ハ夕九時ヨリ朝四時迄十月一日ヨリ三月三十一日ニ至ルノ間ハ夕九時ヨリ朝六時迄ト定ム

第百五條

捜索ノ命令ハ判事ニ屬スル者トス但シ遲延スル爲メニ危害ヲ生ス可キ場合ニハ檢事局及ヒ警察官吏モ之ヲ爲ス而シテ此警察官吏ハ檢事局ノ補吏ト爲リテ其命令ニ從フ可キ義務有ル者ノミニ限ル

家屋職業場或ハ貯蓄セシ所有物ノ捜索ニ方リ判事或ハ檢事ノ立會無キ時ハ成ル可ク捜索スル區内ノ町村吏一名若クハ町村ノ者二名立會ノ上ニテ執行ス可シ但シ警察官吏ハ其中ニ加フルヲ得ス

前項ニ記シタル捜索ノ制限ハ第百四條中第二項ニ記シタル居住所及ヒ其他ノ場所ニハ施行ス可カラス

兵營内ノ捜索ハ軍務廳ニ依頼ス可シ但シ常務廳(判事檢事局)ノ請ヒニ依リ其共力ニテ執行ス然レトモ兵營中常人ノミ居住スル場所ノ捜索ハ之ヲ軍務廳ニ依頼スルヲ要セス

第百六條

捜索ス可キ場所及ヒ物件ノ所有主ハ捜索ノ際之ニ立會ヲ得若シ所有主不在ナル時ハ成ル可ク其代理人或ハ其成丁ノ關係者家族隣保等ヲシテ立會ハシム可シ

第百三條中第一項ノ場合ニ在テハ捜索ノ前ニ所有主或ハ其不在中立

會フ人ニハ捜索ノ目的ヲ告知ス可シ但シ第百四條中第二項ニ記セシ場所ノ所有主ニハ此規則ヲ施行ス可カラス

第百七條

捜索ヲ終リタル後ハ望ニ從ヒ捜索ヲ受ケタル人ニ其理由(第百三條第百三條)並ニ第百三條ノ場合ニ在テハ必ス犯罪ヲ記入ス可キ書面ヲ以テ告知スルヲ要ス又其望ニ從ヒ押收セシ物件ノ目錄ヲ付ス可シ若シ毫モ疑ヒ無キ時ハ其事由ノ證書ヲ付ス可シ

第百八條

吟味ノ爲メニ要スル者ニ非サルモ捜索ノ際己ニ犯シタル他罪ノ事蹟ヲ證スル物件ヲ見出シタル時ハ一時押收ス可シ但シ檢事局ハ之カ明解ヲ付セサル可カラス

第百九條

押收セシ物件ハ精密ニ目錄ニ記載シ又他物ト錯雜セサル爲メニ官印ヲ捺シ或ハ其他適宜ノ方法ヲ立テ認了シ易カラシム可シ

第百十條

捜索ニ因テ得タル書類ヲ通閲スルノ權ハ判事ノミニ屬スル者トス他ノ官吏ノ捜索ニ由リ見出シタル書類ヲ通閲スルノ權ヲ有スル者ハ其書類ノ所有主之ヲ承諾シタル時ノミニ限ル其他ノ場合ニ在テ通閲ヲ要ス可キ者ト思料スル時ハ所有主ノ目前ニ於テ官印ヲ以テ封緘シ直ニ之ヲ判事ニ渡ス可シ

書類ノ所有主或ハ其代理者ニハ官印ノ傍ラニ私印ヲ捺スルヿヲ許ス又書類ノ開封及ヒ通閲ニ方リ別ニ故障無キ時ハ陪坐セシム可シ

判事ハ犯罪ニ關係セル書類ヲ檢事局ニ渡ス可シ

第百十二條

要求權ニ就テ他人ヨリ故障ヲ爲スニ非サレハ犯罪ニ因テ被害者ヨリ得タル物件ハ吟味終結ノ後或ハ特別ノ場合ニ在テハ其終結ノ前ニ官ヨリ被害者ニ還付スル者トス但シ其物件ニ就テハ判決ヲ要セス

此場合ニ在テハ被害者ハ民事裁判上ニ有スル權利ヲ行フヲ得

第九款　收監及ヒ拘執（拘執ハ判事ノ收監狀ヲ以テスル者ヲ謂フ　收監ハ判事ノ收監狀ヲ以テスル者ヲ謂フ　犯罪ノ場合ニ因リ何人ニテモ爲ス者ヲ謂フ）

第百十二條

被罪者ニ於テ確實ナル嫌疑ノ原由發露シテ逃亡ス可キノ恐レ有ルカ或ハ罪跡ヲ消亡シ或ハ證人若クハ共犯ニ詐僞ノ口述ヲ爲サシムル爲メニ之ヲ誑誘シ或ハ證人ニ立證ノ義務ヲ免カレシメンカ爲メニ之ヲ誑誘スト斷定ス可キ事蹟有ル時ニ限リ收監ニ處スルヲ得

此事蹟ハ證據書類中ニ記入ス可シ

左ノ場合ニ在テハ逃亡ノ嫌疑ノ有無ニ拘ハラス收監ニ處ス

第一　吟味ノ事件重罪ナル時

第二　被罪者無籍ナル時或ハ乞丐ナル時或ハ身上ヲ明告セサル時

第三　被罪者外國人ニシテ裁判所ノ召喚ニ應シ出廷ス可キヤ或ハ判決ヲ遵守ス可キヤ否ヤノ極メテ不明ナル時

第百十三條

拘留或ハ罰金ヲ科ス可キ犯罪ニシテ收監ニ處スルヲ得可キ者ハ被罪者逃亡ノ恐レ有ルカ或ハ第百十二條中第二項第三項ニ記シタル人ナルカ或ハ警察監視ヲ受クル人ナルカ或ハ國立警察廳（獨乙各國ニ於テハ各區ニ警察所有リ皆ナ民立ニシテ其區內ニ限リ權力ヲ有ス又國立警察廳ハ官立ニシテ一國內ニ普ク通スル權力ヲ有スル者ナリ）ニ引渡スヲ申渡ス可キ違註罪ニ限ル者トス

第百十四條

收監ハ判事ノ收監狀ニ依テ行フ者トス

收監狀ニハ被罪者ノ身上ヲ精密ニ記載シ且ツ其罪ト爲ル可キ所行及ヒ收監ノ理由ヲ明記セサル可カラス

收監ニ處スルノ際ニハ第三十五條ノ規則ニ從ヒ其令狀ヲ申渡シ又歎訴スルヲ得可キヿヲ申渡ス可シ若シ收監ニ處スルノ際其申渡ヲ爲シ得サルノ場合ニ在テハ入監セシ翌日中ニ同前ノ手續ヲ爲ス可シ

第百十五條

判事ハ被收監者入監ノ翌日中ニ其被罪ノ事件ニ就テ推問ス可キ者トス

第百十六條

被收監者ハ成ル可ク他ノ被收監者ト別異シテ既決禁囚ト同所ニ繫置

ス可カラス但シ被收監者ノ承諾ニ因テハ此定規ヲ施行セサルヲ得被收監者ニハ收監ニ處スルノ本意ヲ失ハサル爲メ或ハ監獄則ヲ遵守ス可キ爲メニ必要ノ制限ヲ立ルノミ

被收監者ハ其身分及ヒ其財産ニ應スル職業生計ヲ自費ニテ爲スヲ得但シ收監ニ處スルノ本意ニ適當シ獄則及ヒ獄安ヲ害セサル者ニ限ル可シ

被收監者ニ監內ニ於テ手鎖ヲ施スヲ得ル者ハ其人ト爲リ殊ニ危險ニシテ他人ノ保安ヲ要ス可キカ或ハ自殺或ハ脫監若クハ其企ヲ爲シタル時ニ限ル但シ本審中ニ在テハ手鎖ヲ施ス可カラス

此規則ニ從ヒ必要ナル命令ハ判事ノ行フ所トス但シ已ムヲ得サル場合ニ在テ他ノ官吏ヨリ其命令ヲ出ス時ハ判事ノ許諾ヲ要ス

第百十七條

被罪者逃亡ノ嫌疑有ル爲メニ之ヲ收監ニ處スル時ニ限リ保釋ニ依リ之ヲ免スヲ得

第百十八條

保釋ハ現貨或ハ紙幣ヲ納メ或ハ抵當品ヲ出シ或ハ本人ヲ保證スルニ依テ爲スヲ得保釋ノ金額及ヒ種類ハ判事ノ意見ヲ以テ之ヲ決定ス

第百十九條

保釋ニ依リ解監ヲ申立ル被罪者若シ獨乙帝國內ニ居住セサル者ナル時ハ其管轄裁判所ノ區內ニ居住スル人ニ引渡スニ就テノ受取權ヲ與フルノ義務有ル者トス

第百二十條

被罪者逃亡ノ企ヲ爲シタル時或ハ宥免ス可キ正當ノ理由無クシテ裁判所ノ召喚ニ應シ出廷セサル時或ハ新タニ發起セシ實況ニ因リ己ムヲ得サル時ハ假令ヒ既ニ保釋スト雖モ亦收監ス可シ

第百二十一條

被罪者ヲ收監セシ時（被罪者ニ保釋ヲ許シテ該者ハ其義務ヲ固守スト雖モ亦已ムヲ得サルノ實況更ニ發スルカ爲メニ收監ヲ要スル時ヲ謂フ）或ハ收監令ヲ廢止セシ時或ハ中渡セシ羈絆ノ刑（自由ヲ制限スル刑ノ總名ニシテ即チ徒刑、城砦禁、禁獄、禁錮及ヒ拘留ノ刑ヲ謂フ）ヲ決行セシ時ハ保釋金ヲ還付スル者トス

被罪者ヲ保證シタル人ハ裁判所ニ於テ確定ス可キ期日內ニ被罪者ヲ出廷セシメシ時或ハ被罪者故意ヲ以テ逃亡ヲ企ツルノ嫌疑有ルニ際シ其機ヲ誤ラス即チ其收監ヲ得セシメタル時ハ保證ノ義務ヲ解免スルヲ得

第百二十二條

被罪者吟味ヲ遁避シ或ハ申渡セシ羈絆ノ刑ノ決行ヲ遁避スル時ハ保

釋金ハ官ニ沒入ス

此裁決ノ前ニ被罪者及ヒ其保證人ニハ其申述ヲ爲サシム可シ又裁決ニ對シ即時歎訴ヲ爲スヲ得又歎訴ニ就テノ裁決前ニ關係者（原被及ヒ辯證人等）及ヒ檢事ハ其申立ノ口述並ニ檢知セシ事蹟ノ辯明ヲ爲スヲ得

被罪者ノ保證人ニ對シ假リニ保釋金沒入ノ裁決申渡ハ即時決行ノ効力無ク歎訴期限ヲ經過セシ後ニ至リ始テ効力ヲ有スルヿ民事ノ判事判決申渡ト異ナルヿ無シ

第百二十三條

收監狀ニ記シタル收監ノ理由消滅セシ時或ハ被罪者ニ無罪ノ申渡ヲ爲シ或ハ罪ヲ不問ニ置ク時ハ收監令ハ廢止スル者トス

伸寃訴ニ因リ不服ヲ訟フルモ之カ爲メニ被罪者ノ解監ヲ遲延スルヿ無シ

第百二十四條

收監並ニ保釋ニ關スル裁決ハ所轄裁判所ヨリ命スル者トス

豫審中豫審判事ハ收監令ヲ發シ或ハ檢事ノ承諾ニ依リ收監令ヲ廢シ並ニ保釋ニ對シ被罪者ヲ解監スルノ職權ヲ有ス若シ檢事承諾セスト雖モ豫審判事猶ホ其例規ヲ執行セントスル時ハ即時裁判所ノ裁決ヲ請願ス可シ遲ク𪜈二十四時間ヲ過ク可カラス

本審開始ノ後已ムヲ得サルノ場合ニ在テハ判決裁判所長モ亦前項ノ職權ヲ有ス

第百二十五條

公訴提起ノ前ト雖モ收監令ヲ發ス可キ正當ノ理由有ル時ハ檢事ノ申立ニ因リ區判事收監令ヲ發スルヲ得若シ遲延ノ爲メニ危害ヲ生ス可キ時ハ檢事ノ申立ヲ待タス收監令ヲ發スルヲ得

犯罪ノ裁判權ヲ有シ或ハ收監スル可キ者ヲ管轄スル區判事ハ皆前項ノ收監令ヲ發シ又收監及ヒ保釋ニ就キ裁決ヲ爲スノ職權ヲ有ス

第百十四條乃至第百二十三條ノ規則ハ本條ニ於テモ亦施行ス

第百二十六條

公訴提起ノ前ニ發シタル收監令ノ廢止ニ屬スルハ檢事ヨリ之ヲ申立タル時或ハ收監令ヲ決行セシ後一週內ニ公訴ヲ提起セス又所屬判事ヨリ其收監ヲ連續スルヿヲモ令セス或ハ此令ノ發シタルヲ區判事知了セサル時トス

公訴ノ豫審及ヒ其提起ノ爲メニ一週ノ期日ヲ以テ不足トスル時檢事ヨリ申立タルニ於テハ區判事ハ猶ホ一週ノ延期ヲ命スルヲ得而シテ重罪或ハ輕罪ノ場合ニ在テ檢事ヨリ更ニ申立タル時ハ又二週間ヲ延期スルヲ得

第百二十七條

現行犯罪ノ場合ニ際シ或ハ之ヲ追逮スルニ方リ逃亡ノ恐レ有ル時或ハ其人ヲ疑フ可キ者ナル時ハ何人ヲ問ハス判事ノ命ヲ受ケスシテ拘執スルノ權ヲ有スル者トス

檢事及ヒ警察吏ハ收監令ヲ發スルノ理由有テ遲延スレハ危害ヲ生ス可キ時ニ方テハ亦拘執ノ權有ル者トス

申立ヲ待テ其罪ヲ問フ可キ犯罪ニ於テハ其申立ヲ爲ス時ニ限リ拘執スル者トス

第百二十八條

被拘執者ハ放免ス可カラサル者ニ限リ直ニ其拘執セシ本區ノ區判事ニ引渡ス可シ區判事ハ遲クモ其翌日內ニ必ス推問ス可キ者トス

區判事ハ拘執ヲ不當ト認メタル時或ハ拘執ノ理由消滅セリトスル時

放免ヲ命ス然ラサレハ第百二十六條ノ規則ニ從テ收監令ヲ發ス可シ

第百二十九條

被拘執者ニ對シ公訴ヲ提起シタル時ハ被拘執者ヲ直ニ其管轄裁判所或ハ豫審判事ニ引渡ス可シ或ハ最初引渡シタル區判事ノ命令ニ從ヒ此手續ヲ爲ス可シ而シテ裁判所及ヒ豫審判事ハ必ス引渡シノ翌日內ニ被拘執者ノ放免ス可キヤ或ハ收監ス可キヤヲ裁決ス可キ者トス

第百三十條

申立ヲ待テ處斷ス可キ犯罪ニ就キ嫌疑有ルカ爲メニ其申立ヲ待タスシテ收監令ヲ發スル時ハ其申立權者數名然ラサルモ一名ニ直ニ收監令ヲ發シタル旨ヲ告知ス可シ而シテ此收監令モ亦第百二十六條ノ規則ニ從フ可シ

第百三十一條

收監ス可キ者若シ逃亡シタルカ或ハ潛匿シタル時ハ收監令ニ因リ判事及ヒ檢事ハ捕縛令ヲ發スルヲ得

被拘執者監ヲ脫シ或ハ監守ヲ脫シタル時ニ限リ收監令ヲ發セスシテ直ニ捕縛令ヲ發スル者トス此場合ニ在テハ警察署モ亦捕縛令ヲ發スルノ權ヲ有ス

捕縛令ニハ成ル可ク收監ス可キ者ノ人相書並ニ犯罪ノ所行及ヒ引渡ス可キ監倉ヲモ明記ス可シ

第百三十二條

收監令或ハ捕縛令ニ因リ犯者ヲ捕獲セシ翌日內ニ之ヲ所屬判事ニ引渡スヲ得可カラサル時ハ捕獲者ノ望ニ任セ直ニ近地ノ區判事ニ引渡ス可シ

捕獲者ノ推問ハ捕獲ノ翌日内ニ執行セサル可カラス若シ推問ノ際ニ在テ其逃逃セラレタル本人ニ非ス或ハ所屬裁判所ニ於テ逃逃ヲ取消シタルコトヲ證明シタル時ハ區判事放免ヲ申渡ス可シ

第十款　被罪者ノ推問

第百三十三條

被罪者ヲ推問スル爲メノ召喚ハ必ス書面ヲ以テス可シ

召喚狀ニハ被罪者若シ出廷セサル時ハ拘引ス可シトノ明文ヲ記載スルヲ得

第百三十四條

收監令ヲ發ス可キ事由有ル時ハ召喚狀ヲ須ヒス被罪者ヲ直ニ拘引スルコトヲ命令スルヲ得

拘引狀ニハ被罪者ヲ精細ニ記載シ而シテ犯罪ノ所行及ヒ拘引ノ理由

ヲ詳記ス可シ

第百三十五條

判事ハ被拘引者ヲ直ニ推問ス可キ者トス然レ𪜈直ニ推問ヲ爲シ得可カラサルノ場合ニ在テハ其推問ニ取掛ル迄ハ之ヲ拘置スルヲ得但シ其翌日ヲ過ク可カラス

第百三十六條

推問ノ初ニ方テハ先ツ被罪者ニ本罪ノ所行ヲ告知シ又其事件ハ何ヲ以テ答辯セシト思フカヲ問フ可シ

推問ハ被罪者ニ務メテ便宜ヲ與ヘ其嫌疑ノ事由ヲ消滅スル爲メ及ヒ其利ヲ爲ル可キ口述上ノ事蹟ヲシテ貫徹ス可カラシムルヲ要ス

推問ノ初ニ在テハ被罪者ノ人ト爲リ如何ノ實行ヲ檢察シ得ンコトニ注意ス可シ

第十一款　辯護

第百三十七條

被罪者ハ吟味ノ各場合ニ在テ辯護人ノ輔助ヲ要スルヲ得

被罪者法律上ノ代理人ヲ有スル時ハ此代理人モ亦自カラ辯護人ヲ選定スルヲ得可シ（選定ハ被罪者及ヒ代理人ノ自カラ選フヲ謂フ　此下選任ノ字ヲ用ル者ハ官ヨリ選フヲ謂フ）

第百三十八條

獨乙國裁判所ニ於テ允許セシ代言人並ニ大學校ノ法律教師ハ辯護人トシテ選フヲ得

其他ノ人ハ裁判所ノ允許ヲ得テ辯護人ト爲ルヲ得而シテ辯護上已ムヲ得サルノ場合ニ在テ其職ニ任ス可カラサル人ヲ辯護人ニ選定スル時ハ亦其允許ヲ得其任ニ當ル可キ人ノ共力ニ依テ爲スヲ得

第百三十九條

辯護人ニ選定セラレタル代言人ハ被告ノ許諾ヲ得テ法律事務ノ初期試驗ニ及第シテ少クトモ二年以來其職ヲ勤メタル法律學士ニ辯護ヲ委託スルヲ得

第百四十條

初審裁判ヲ帝國高等裁判所或ハ陪審裁判所ニテ取扱フ事件ニ於テハ必ス辯護ヲ要スル者トス初審裁判ヲ地方裁判所ニ於テ取扱フ事件ニ於テハ左ノ場合ニ於テ辯護ヲ要ス

第一　被罪者聾或ハ啞或ハ十六歲未滿ナル時

第二　吟味ノ件重罪ニシテ被罪者或ハ法律上代理人ヨリ辯護人ノ選任ヲ申立テタル時

此定規ハ再犯以上ノ罪ヲ犯シテ重罪ト爲リタル時ニハ施行ス可カラス

第一項及ヒ第二項中第一ノ場合ニ在テ未タ辯護人ヲ選定セサル被罪者ニ若シ第百九十九條ノ條則ニ於ケル督促ヲ要スルニ方テハ官ヨリ辯護人ヲ選任スル者トス第二項中第二ノ場合ニ在テハ督促ヲ受ケタル後三日間ニ辯護人ヲ申出ス可シ

第百四十一條

第百四十條ニ記シタル他ノ場合ニ在テハ申立ヲ待チ或ハ之ヲ待タスシテ裁判所ヨリ辯護人ヲ選任シ已ムヲ得サルノ際ニ在テハ亦裁判所長ヨリ選任スル者トス

第百四十二條

辯護人ハ豫審中ト雖モ選任スルヲ得

第百四十三條

他ノ辯護人ヲ選定シテ其承諾ヲ得タル時ハ前ノ辯護人ハ解任スル者

トス

第百四十四條

選任ス可キ辯護人ハ所屬裁判所ノ所在地ニ住居スル代言人ノ中ヨリ其裁判所長之ヲ選任ス豫審中ニ在テハ區判事之ヲ選任ス

判事ニ非サル法律事務官並ニ曩ニ法律事務初期試驗ニ及第セシ法律學士（第百三十九條ニ見ユ）ハ亦辯護人トシテ選任スルヲ得

第百四十五條

辯護必要ノ場合（第百四十條）或ハ第百四十一條ノ定規ニ從ヒ辯護人ヲ選任シタルノ場合ニ在テ辯護人本審中ニ出廷セス或ハ不時ニ退去シ或ハ辯護ヲ肯セサル時ハ裁判所長ハ直ニ他ノ辯護人ヲ選任シテ被罪者ニ付ス可キ者トス然レトモ裁判所ハ亦吟味ノ中止ヲ決議スルヲ得

新任ノ辯護人辯護上ノ爲メ下調ヲ爲スニ時間ヲ要スルヿヲ申明スル

時ハ吟味ヲ停止シ或ハ遷延ス可シ

辯護人ノ過失ニ因テ己ムヲ得ス吟味ヲ遷延ス可キ時ハ之ヨリ生スル費用ヲ辯護人ニ科ス可シ但シ其職務上ノ刑ハ此限ニ在ラス

第百四十六條

數名ノ被罪者ノ辯護ヲ一名ノ辯護人ニテ爲スモ其職ニ妨害無キ時ハ共通辯護人トシテ辯護セシムルヲ得

第百四十七條

辯護人ハ判事豫審ノ終結後或ハ此豫審ヲ爲サヽル時ハ本訴狀（本審ヲ請フ訴狀ヲ謂フ）差出スノ後裁判所ニ就テ書類ヲ通閲スルノ權ヲ有ス

前項ノ期限前ト雖モ吟味ノ主旨ニ危險無キ時ニ限リ判事豫審ノ書類ヲ辯護人ニ通閲セシム可シ

被罪者推問ノ口供鑑定人ノ斷案及ヒ辯護人ノ陪坐ス可キ權ヲ有スル裁判所吟味ノ口供ハ辯護人ノ請ヒニ應シ必ス通閲セシム可シ

第百四十八條

收監セシ被罪者ト辯護人トハ書通及ヒ面語ヲ爲スヲ許ス

本審前ニ在テハ判事ハ被罪者ニ示ス可カラサル信書ヲ還付スルヲ得

本審前ニ在テハ判事ハ被罪者ト辯護人トノ面語ノ際裁判所ノ委員一名ニ命シテ之ニ陪坐セシム但シ被罪者逃亡ノ恐レ有ルノミナラス又他ノ主旨ニ因リ收監ヲ命シタル時ニ限ル

第百四十九條

被告人ノ本夫ハ本審中其輔助ト爲ルヲ得而シテ本夫ハ望ニ從ヒ推問ヲ受ク可キ者トス

被告人幼年ナル時ハ其實父養父或ハ後見人モ亦同シ

豫審中輔助ヲ許スト否トハ判事ノ意見ニ任ス

第百五十條

辯護人ニ選任セシ代言人ニハ手數料規則ニ從ヒ辯護ニ就テノ手數料ヲ官ノ會計局ヨリ下付スル者トス

被訴人ニ科シタル費用ハ猶ホ本人ヨリ追徵ス

第三卷　初審裁判ノ手續

第一款　公訴（分テ二種トスル一ハ檢事局ヨリ豫審裁判所ニ申立ツ一ハ同局ヨリ直ニ本審裁判所ニ本訴狀ヲ出スヲ謂フ）

第百五十一條

裁判所ノ吟味ハ訴訟ヲ提起スルニ因リ開始スル者トス

第百五十二條

公訴ノ提起ハ檢事局ノ任トス

檢事局ハ裁判所ニ於テ處罰ス可ク且ツ審問ス可キ犯罪有ルニ際シ事蹟上ニ確認スル要點有レハ直ニ着手スルノ義務ヲ有ス但シ法律上利ニ規則ヲ設クル者ハ此限ニ在ラス

第百五十三條

吟味及ヒ裁決ハ訴狀中ニ證明セル犯罪及ヒ訴訟ニ因リ罪ヲ得タル人

ノミニ限リ其他ニ及ホスヲ得ス

裁判所ハ此權限内ニ在テハ專斷ノ權利義務ヲ有ス殊ニ擬律ニ臨テハ訟狀ノ申立ハ全ク關係無キ者トス

第百五十四條

公訴ハ吟味ヲ開始セシ後ニ至テハ取消スヲ得サル者トス

第百五十五條

此法律ニ於テハ

被告人トハ即チ公訴ノ提起ヲ受ケタル被罪者ヲ謂フ

被訴人トハ即チ本審開始ノ決議ヲ受ケタル被罪者或ハ被告人ヲ謂フ

第二款　公訴ノ豫備

第百五十六條

犯罪ノ告知或ハ吟味ノ申立ハ言辭或ハ書面ニテ檢事局、警察署及ヒ警

察吏、區裁判所ニ爲スヲ得但シ言辭上ノ告知ハ書面中ニ記入シ置ク可シ

申立ヲ待テ吟味ス可キ犯罪ニ於テハ裁判所或ハ檢事局ニ書面ヲ以テ申立テ或ハ申立ヲ記錄中ニ記取セシムルヲ得警察署ニ在テハ書面ヲ以テ申立ルヲ得

第百五十七條

變死人ナリト認定ス可キ事由有ルカ或ハ不明ノ死體ヲ見出ス時ハ警察署ハ之ヲ檢事局或ハ區判事ニ即時告知スルノ義務有ル者トス

埋葬ハ檢事局或ハ區判事ノ承諾書有ルニ非サレハ之ヲ行フヲ得ス

第百五十八條

檢事局ハ告知或ハ其他ノ方法ニ依リ犯罪ノ疑ヒ有ルヿヲ知了スルニ方テハ公訴ヲ提起ス可キヤ否ヤヲ決定センカ爲メニ罪件ノ現況ヲ詳カニ檢察ス可シ

檢事局ニ歸罪ノ爲メニ必要ナル情況ヲ檢察ス可キノミナラス免罪ノ爲メニモ亦檢察ヲ要スル者トス而シテ消失ノ恐レ有ル證據ヲ取ルニ注意ス可シ

第百五十九條

前條ノ目的ヲ達セシカ爲メニ檢事局ハ諸官署ニ報告ヲ請フヲ得而シテ自カラ諸事ヲ檢審シ或ハ警察署及ヒ警察吏ニ執行セシムルヲ得但シ誓約ヲ要シ推問スルヲ得ス又警察署及ヒ警察吏ハ檢事局ノ囑託及ヒ命令ニ從フ可キ義務有ル者トス

第百六十條

檢事局ハ判事豫審ヲ必要ナリト思料スル時ハ之ヲ執行ス可キ該區ノ區判事ニ其申立ヲ爲ス可シ

區判事ハ其申立タル豫審ヲ法律上ニ於テ許スヤ否ヤヲ各現況ニ從ヒ

案檢ス可シ

第百六十一條

警察署及ヒ警察官吏ハ犯罪ヲ搜索シテ事蹟ノ埋沒ヲ防クカ爲メニ急ヲ要スル命令ヲ行フ可シ

警察署及ヒ其官吏ハ又其行ヒタル調書ヲ速カニ檢事局ニ送致ス可シ若シ至急ニ判事ノ豫審ヲ要ス可キ者ハ直ニ區判事ニ送致スルヲ得

第百六十二條

各地ニ於テ職務ヲ執行スルニ方リ指揮官吏ハ妨害ヲ爲シ或ハ其權內ニテ發スル命令ニ抗スル人有ル時ハ之ヲ拘引シテ其執行ノ終結迄ハ拘置スルノ權ヲ有ス但シ其拘置時間ハ翌日ヲ過ク可カラス

第百六十三條

遲延ノ爲メニ危害ヲ生ス可キ恐レ有ル時ハ區判事ハ申立ヲ待タス必

要ノ吟味ヲ執行ス可キ者トス

第百六十四條

區判事ハ被罪者ヲ推問スルノ際被罪者ヨリ免罪ト爲ル可キ證ヲ立ンヿヲ申立テ而シテ其證ハ至要ナリト思料ス可クシテ埋沒ノ恐レ有ルカ或ハ放免シ得可キ事由有ル時ハ其證ヲ立テシム可キ者トス

區判事若シ他ノ管轄内ニテ立證ヲ爲サシム可キ時ハ其區ノ判事ニ依賴ス可シ

第百六十五條

第百六十三條第百六十四條ノ場合ニ在テ其他ノ處分ヲ爲スハ檢事局ニ屬スル者トス

第百六十六條

區判事ノ執行ス可キ吟味ニ就キ調書ヲ作リ及ヒ裁判所書記ヲ携帶ス

ルヿハ裁判所ノ豫審規則ニ從フ可キ者トス

第百六十七條

檢事判事ノ吟味ニ干預スルニ就テハ亦豫審規則ニ從フ可シ

被罪者判事ヨリ推問ヲ受ケ或ハ收監ニ處セラレタル時ハ被罪者辯護人及ヒ被罪者ノ任定セシ鑑定人ニ於テモ亦前項ニ同シ

第百六十八條

檢事ニ於テ豫審ヲ執行シ其果効ニ因リ公訴ス可キ確實ノ理由有ル時ハ裁判所ニ判事豫審ノ申立ヲ爲シ或ハ本訴狀ヲ差出ス可シ

其他ノ場合ニ在テ檢事局吟味ヲ廢止シ而シテ判事被罪者ヲ推問シタル時或ハ收監ニ處シタル時ハ其廢止ヲ被罪者ニ申渡ス可シ

第百六十九條

公訴提起ヲ檢事局ニ申立テ該局之ヲ受理セス或ハ豫審決定ノ後吟味

ヲ廢止スル時ハ其理由ヲ審判シテ申立人ニ申渡ヲ爲ス可キ者トス

第百七十條

申立人ニシテ亦被害者ナル時ハ申渡シ三日內ニ其審判ニ對シ檢事局長ニ歎訴スルヲ得而シテ其歎訴却下ノ決定ニ對シテハ申渡シ後一箇月內ニ裁判所ノ裁決ヲ請願スルヲ得可シ

其請願書ハ公訴ヲ提起ス可キ理由ヲ有シ而シテ證據件ヲ付ス可キ事蹟ニ在テハ代言人ノ手署ヲ要ス可キ者トス又其請願ハ其裁決ヲ爲ス可キ所屬裁判所ニ差出ス可シ

其裁決ノ權ハ帝國高等裁判所ニ關係スル事件ニ於テハ帝國高等裁判所ニ屬シ其他ノ事件ハ上等地方裁判所ニ屬ス

第百七十一條

檢事局ハ裁判所ノ請ヒニ從ヒ是ヨリ前ニ執行シタル手續ノ調書ヲ差出ス可シ

裁判所ハ期限ヲ確定シ申立書ヲ被罪者ニ付シテ辯明ヲ爲サシムルヲ得

裁判所ハ其裁決ノ爲メ案檢ヲ必要ナリト思料スル時ハ之ヲ裁判所參員ノ一名或ハ豫審判事或ハ區判事ニ委任スルヲ得

第百七十二條

裁判所ハ公訴ヲ提起ス可キ理由無キ時ハ之ヲ廢止シ而シテ申立者檢事局及ヒ被罪者ニ告知ス可シ

申立ヲ廢止シタル時ト雖モ更ニ公訴ス可キ事蹟或ハ證據件ノ發見セシ時ハ之ニ因テ公訴ヲ爲スヲ得

第百七十三條

之ニ反シテ裁判所ニ於テ申立ノ理由有リト思料スル時ハ公訴ヲ爲ス可キヿヲ決議ス而シテ之ヲ決行スルハ檢事ノ義務トス

第百七十四條

裁判所ハ申立ヲ裁決スル前ニ其決議ニ因リ申立手續及ヒ吟味ヲ爲スニ就キ會計局並ニ被罪者ニ生スル豫算費ノ保證金ヲ申立者ニ命シテ納メシムルヲ得而シテ此保證ハ現金或ハ紙幣ヲ預リ置ク者トス其金額ノ決定ハ裁判所ノ意見ニ任ス納金期限ノ決定モ亦同シ

裁判所ハ期限內ニ保證金ヲ納メサル時ハ申立無効ノ申渡ヲ爲ス可シ

第百七十五條

第百七十二條及ヒ第百七十四條第二項ノ場合ニ在テハ申立ニ就テノ手續ヲ爲スニ因リ生シタル費用ハ申立者ニ科ス可キ者トス

第三款　裁判所ノ豫審

第百七十六條

帝國高等裁判所或ハ陪審裁判所ノ權內ニ屬スル事件ハ必ス豫審ヲ要

スル者トス

地方裁判所ノ權內ニ屬スル事件ニ於テハ左ノ場合ニ限リ豫審ヲ要ス

第一　檢事局ヨリ豫審ヲ申立ル時

第二　被告人ヨリ第百九十九條ノ條則ニ從ヒ豫審ヲ申立テ而シテ被告人ヲ辯護スル爲メ豫審ヲ必要ナリトスル事由明確ナル時

參審裁判所ノ權內ニ屬スル事件ニ於テハ豫審ヲ許サスト雖モ數罪俱發セシ時之ヲ連合スルノ場合(第五條)ニ在テハ豫審ヲ爲スヲ得

第百七十七條

檢事局ヨリ差出ス豫審開始ノ申立ハ被罪者及ヒ其本罪ヲ證明セサル可カラス

第百七十八條

申立ヲ受理セサルヲ得可キ者ハ裁判所ノ裁判權非屬ナルカ或ハ不論

罪ナルカ或ハ豫審ヲ不許カ或ハ申立タル所行刑法上ノ犯罪ニ非サル時トス此場合ニ在テハ裁判所ノ決議ヲ要ス

此決議ノ前ニ被告人ヲ推問スルヲ得

第百七十九條

檢事局ノ申立ニ從ヒ豫審開始ニ就テノ命令ニ對シ被告人ハ第百七十八條中第一項ニ記載セシ理由ニ基ツキ不服ヲ申立ルヲ得而シテ其裁決ハ裁判所ニ於テ爲ス者トス

裁判所ノ決議ヲ經テ豫審ヲ開始シ其決議前ニ被告人推問ヲ受ケタル時ハ前項ノ定規ヲ施行ス可カラス

第百八十條

第百七十八條第二項及ヒ第百七十九條第一項ノ場合ニ在テ被告人ヨリ裁判權非屬(第十六條)ノ不服ヲ申立テ裁判所ノ決議ニ因リ之ヲ却下

スル時ハ被告人ハ其決議ニ對シ即時歎訴ヲ爲スヲ得

此他ノ場合ニ在テ裁判所ノ決議ニ因リ被告人ノ不服訴ヲ却下シ或ハ豫審ヲ命スル時ハ其決議ニ對シ不服ヲ申立ルヲ得ス

第百八十一條

檢事局或ハ被告人ヨリ豫審ノ開始ヲ申立テ裁判所ノ決議ニ因リ之ヲ受理セサル時ハ其決議ニ對シ即時歎訴ヲ爲スヲ得

第百八十二條

豫審ハ豫審判事之ヲ開始シ繼續シテ執行スル者トス

第百八十三條

地方裁判所ハ檢事局ノ申立ニ依リ其決議ヲ以テ區判事ニ豫審ノ執行ヲ委任スルヲ得又豫審判事ハ各豫審ノ執行ヲ區判事ニ依頼スルヲ得但シ豫審判事ト官署所在ノ地ヲ同フスル區判事ニハ此定規ヲ施行セス

第百八十四條

帝國高等裁判所長ハ該所ニ屬スル各件ニ就テハ其參員中ヨリ豫審判事ヲ選任ス

又帝國高等裁判所長ハ他ノ獨乙國裁判所（帝國高等裁判所外ノ裁判所）ノ各參員及ヒ區判事ヲ豫審判事ニ任シ或ハ豫審判事ノ事務ノ一部ニ就キ之カ代理人ニ任スルヲ得

豫審判事及ヒ其代理人ハ各豫審ノ執行ヲ區判事ニ依頼スルヲ得

第百八十五條

豫審判事ハ被告人證人及ヒ鑑定人ヲ推問シ並ニ現證ヲ取ルノ際必ス裁判書記ヲ携帶ス可シ又已ムヲ得サルノ場合ニ在テハ他人ニ誓約ヲ爲サシメ裁判書記トシテ携帶スルヲ得

第百八十六條

各豫審手續ニ就テハ必ス調書ヲ作ル可シ而シテ其調書ニハ必ス豫審判事及ヒ裁判書記ノ手署ヲ爲ス可シ

調書ニハ豫審ノ場所及ヒ日時並ニ參與シタル人ヲ記入シテ豫審手續法ノ要件ヲ遵行セシヤ否ヤヲ一目瞭然タラシム可シ

豫審ニ參與セシ人ニハ其關係事件ニ限リ承諾ヲ得ル爲メニ調書ヲ讀聞カセ或ハ自カラ通閲スル爲メニ之ヲ示ス可シ又其承諾セシヤ否ヤヲ記入シテ手署ヲ爲サシム可シ若シ手署ヲ爲サヽレハ其事由ヲ記載ス可シ

第百八十七條

警察署及ヒ其官吏ハ各規則ヲ實行スル爲メ或ハ事實案檢ニ就テノ豫審判事ノ依頼或ハ命令ヲ遵行ス可キ義務ヲ有ス

第百八十八條

豫審ノ主旨ハ本審ヲ開始ス可キカ或ハ被告人ヲ不問ニ置ク可キカニ

限リ之ヲ裁決スル爲メニシテ其他ニ及ホスヲ得サル者トス

本審迄ニ消滅スルノ恐レ有ル證據或ハ被告人ノ辯護ノ爲メ要スル證據ハ豫審中ニ收置ス可キ者トス

第百八十九條

豫審中檢事ヨリ申立サル人或ハ申立サル所行ニ其豫審ヲ及ホス可キヲ要スル時已ムヲ得サルノ場合ニ在テハ豫審判事ハ申立ヲ待タス之ニ就テノ必要ノ豫審ヲ執行セサル可カラス

此ノ如キ場合ニ在テモ亦其他ノ命令ハ檢事ニ屬スル者トス

第百九十條

被告人ハ假令ヒ豫審開始ノ前ニ推問ヲ受ケタリト雖モ豫審中亦推問ヲ受ク可キ者トス此場合ニ在テハ豫審開始ニ就テノ命令ヲ被告人ニ告知ス可シ

第百九十一條

現證ヲ取ルニ方テハ檢事被告人及ヒ辯護人ヲシテ臨席セシム可シ

本審中故障有テ之ニ出廷ス可カラサルヲ豫知シ或ハ路程ノ遠隔セルカ爲メ本審中出廷シ難キ證人或ハ鑑定人ヲ推問スル時モ亦檢事被告人及ヒ辯護人ヲ臨席セシム可シ

臨席ス可キ權利者ニハ豫メ期日ヲ告知ス可シ但シ其期日ノ遲延ス可カラサル時ニ限ル

收監ニ處セラレシ被告人ハ其監ト所在ヲ同フスル裁判所ノ地内ニ限リ臨席請求ノ權ヲ有ス

臨席ス可キ權利者ハ故障有ルモ之カ爲メ期日ノ變更ヲ請求スルノ權無シ

第百九十二條

證人被告人ノ目前ニ在テ誠實ヲ吐露セサルノ恐レ有ル時ハ判事ハ其

被告人ヲシテ吟味ノ席ヨリ退去セシムルヲ得

第百九十三條

鑑定人立會ノ上ニテ現證ヲ取ル時ハ被告人ハ本審中ニ要ス可キ鑑定人ヲ此期日ニ召喚ス可キヿヲ申立ルヲ得若シ判事之ヲ肯セサル時ハ自カラ之ヲ呼出スヲ得

被告人ヨリ指名セシ鑑定人ニ現證及ヒ必要ノ吟味ニ關係セシムルヲ許ス者ハ判事ヨリ任シタル鑑定人ノ職務ニ妨害ヲ加ヘサル時ノミニ限ル者トス

第百九十四條

檢事局ニハ吟味書類ヲ通閲シ判事豫審ノ現況ヲ認定シテ其事件ニ就テノ申立ヲ爲サシムル者トス但シ之ニ因テ吟味ヲ中止セス

第百九十五條

豫審判事ハ豫審上ノ目的ヲ全ク爲シタルト思料スル時ハ其吟味書類ハ檢事局ニ送達シテ申立ヲ爲サシムル可シ

檢事局ニ於テ豫審ノ不足ヲ補充ス可キヿヲ申立テ而シテ豫審判事其申立ヲ肯セサル時ハ裁判所ニ裁決ヲ請フ可キ者トス

判事豫審ノ終結スル時ハ之ヲ被告人ニ告知ス可シ

第四款　本審開始ニ就テノ裁決

第百九十六條

判事ノ豫審ヲ行ヒタル時ハ裁判所ハ本審ヲ開始ス可キカ或ハ不問ニ置ク可キカ或ハ本審ヲ暫時中止ス可キカヲ裁決ス

此目的ノ爲メニ檢事局ハ申立ト共ニ吟味書類ヲ差出ス可シ但シ本審開始ニ就テノ申立ハ本訴狀ヲ以テセサル可カラス

第百九十七條

判事ノ豫審ヲ行ハスシテ檢事局ヨリ本訴狀ヲ差出スニ方リ其事件參審裁判所ノ權內ニ屬スル時ハ本訴狀ト吟味書類ヲ區判事ニ出シ其他ノ場合ニ在テハ地方裁判所ニ出ス可シ

第百九十八條

本訴狀ニハ被告人ノ犯罪ノ所行ヲ法律上ノ性質及ヒ其擬ス可キ刑法ニ據テ記載シ並ニ證據件及ヒ本審ヲ開始ス可キ裁判所ヲ記載ス可キ者トス

帝國高等裁判所、陪審裁判所或ハ地方裁判所ニ於テ吟味ス可キ事件ニ於テハ訴狀上前項ニ記載セシ外ニ按檢セシ事件中必要ナル者ヲ記入ス可シ

第百九十九條

裁判長ハ訴狀ヲ被告人ニ下附シ同時ニ又本審開始前ニ判事ノ豫審或

ハ立證ニ就テノ申立ヲ爲サシムルカ或ハ本審開始ニ對シ不服ヲ申立ンドスルカヲ一定ノ期限內ニ明申ス可キヿヲ被告人ニ督促ス可キ者トス（一定ノ期限トハ裁判長ノ意見ヲ以テ相當ノ期限ヲ定ム可キ者ヲ謂フ）

若シ已ニ判事ノ豫審ヲ爲シタル時ハ其督促ハ時宜ニ從フ可シ

前項ノ申立テ及ヒ不服ハ裁判所ニ於テ決議ス而シテ其決議ニ對スル不服ハ第百八十條第一項及ヒ第百八十一條中ノ定期ニ從ヒ爲スヲ得

參審裁判所ニ屬スル事件ニハ本條ノ定期ヲ施行ス可カラス

第二百條

裁判所ハ本訴ノ事件ヲ愈明瞭ナラシメンカ爲メ判事豫審ノ缺ヲ補充シ若シ此豫審ヲ執行セサル時ニ在テハ之ヲ開始シ或ハ證據ヲ取ルヿヲ命スルヲ得但シ立證ニ就テハ命令ハ區判事モ亦爲スヲ得

此決議ニ對シテハ不服ヲ申立ルヲ許サス

第二百一條

裁判所ハ判事豫審或ハ檢事豫審ノ果効ニ從ヒ被告人ニ充分ニ犯罪ノ所行有リト認了ス可キ時ニ於テ本審ノ開始ヲ決議ス

第二百二條

若シ本審ヲ開始ス可カラスト決議スル時ハ事蹟上或ハ法律上ノ理由ニ因リ之ヲ決議セシカヲ明審セサル可カラス

判事豫審ヲ行ヒタル時被告人不問罪ニ當レハ之カ申渡ヲ爲ス者トス

此決議ハ被告人ニ告知ス可シ

第二百三條

本審ノ中止ヲ決議スルヲ得ルハ被告人ノ不在ナルカ或ハ犯罪後精神病ニ罹リタルニ因リ以後ノ吟味ヲ繼續ス可カラサル時トス

第二百四條

裁判所ハ檢事局ノ申立ニ關セス決議ヲ爲スヿヲ得

第二百五條

本審開始ノ決議書ニハ被告人ノ犯罪ノ所行ニ就テ法律上ノ性質及ヒ擬用ス可キ刑法ヲ揭ケ並ニ本審ヲ爲ス可キ裁判所ヲ記載ス可キ者トス

同時ニ裁判所ハ申立ヲ待タス收監ノ命令或ハ其期限ヲ決議ス可キ者トス

第二百六條

檢事局ヨリ被告人ヲ不問罪ニ置ク可キヿヲ申立テタルト雖モ裁判所ニ於テ本審ヲ開始スルノ決議ヲ爲シタル時ハ同局ハ其決議ニ從ヒ本訴狀ヲ差出サヽル可カラス

此場合ニ在テモ亦第百九十九條ノ定規ヲ施行スル者トス但シ被告人

ニ對スル督促ハ本審開始ノ前ニ立證ニ就テ申立ヲ爲サントスルカ否ヤヲ問フニ限ル

第二百七條

地方裁判所ハ各箇ノ判決裁判所ニ先立チ本審ヲ開始スルヲ得可シト雖モ帝國高等裁判所ニ先立ツヲ得可カラス若シ帝國高等裁判所ニ屬スル者ト確定スル時ハ檢事局ニ依頼シテ其關係ノ證據書類ヲ帝國高等裁判所ニ差出シテ裁決ヲ爲サシム可シ（裁判所章程參考）

區判事ニ差出シタル事件若シ參審裁判所ノ權限ヲ越ユ可キ者ト確定スル時ハ區判事ハ亦檢事局ニ依頼シテ證據書類ヲ地方裁判所ニ差出シ裁決ヲ爲サシム可シ

第二百八條

一人ニシテ數罪俱發シ豫審ヲ行ヒタル時ニシテ其事件ノ孰レモ刑ヲ

擬決スルヲ要セサルト認了ス可キ場合ニ在テハ裁判所ハ檢事局ノ申立ニ因リ本審中止ノ決議ヲ爲スヲ得

此決議ヲ申渡シ而シテ其申渡ノ如ク決行シタル後三箇月ノ期限内ニシテ又刑期消滅ニ至ラサル時ハ檢事局ヨリ中止決議ノ取消ヲ申立ルヲ得

第二百九條

本審開始ノ決議ニ就テハ被訴人ヨリ不服ヲ申立ルヲ得ス

本審開始ヲ爲サス或ハ檢事局ノ申立ヲ受ケスシテ下位裁判所ニ轉移ノ申渡ノ決議ニ就テハ即時歎訴ヲ爲スヲ得

第二百十條

歎訴ヲ得サル決議ニ依テ本審開始ヲ爲サヽル時ト雖モ事蹟若クハ證據物新タニ發出スルニ於テハ復タ訴訟ヲ爲スヲ得

第二百十一條

被罪者自首スルカ或ハ拘執シテ裁判所ニ引致スルカ或ハ違註罪ヲ犯シタル時ハ本訴狀ヲ差出スヿ無ク又本審開始ノ裁決ヲ要セスシテ參審裁判所ニ於テ本審ニ取掛ルヲ得又自首或ハ引致ノ場合ニ在テハ訴訟ノ要旨ヲ訟廷口供書中ニ記載シ其他ノ場合ニ在テハ其要旨ヲ召喚狀中ニ記載ス可キ者トス

違註罪ヲ犯シタル被罪者ヲ處罰スル時其所行ヲ首實スルニ於テハ區判事ハ檢事局ノ承諾ヲ得テ參審ノ立會ヲ爲サス本審ヲ開クヲ得又本審中ニ命シタル區判事ノ裁決並ニ判決ニ對シテハ參審裁判所ノ裁決並ニ判決ニ於ケル同一ノ不服訴ヲ爲スヲ得

第五款　本審ノ豫備

第二百十二條

本審ノ時日ハ裁判長之ヲ確定ス

第二百十三條

本審ノ爲メニ要スル召喚及ヒ證據物ノ收受ハ檢事局ニ於テ行フ者トス

第二百十四條

本審開始ノ決議書ハ遲クモ召喚狀ト共ニ被訴人ニ交付ス可キ者トス

第二百十五條

收監セサル被訴人ノ召喚狀ニハ宥恕ス可キノ故無クシテ出廷セサル時ハ收監或ハ拘引ス可キトノ明文ヲ記載ス可シ但シ第二百三十一條ノ場合ニ在テハ之ヲ記載セサルモ妨ケ無シトス

收監セシ被訴人ノ召喚狀ハ第三十五條ノ手續ニ從ヒ本審ノ時日ヲ申渡ス可シ此場合ニ在テハ本審ノ爲メ辯護ヲ要スルヤ否ヤニ就キ如何

ナル申立ヲ爲スカヲ問フ可キ者トス

第二百十六條

召喚狀交付(第二百十五條)ト本審ノ日トノ間ハ少ナクモ一週ノ期日無カル可カラス

此期日ヲ經過シテ本審ノ開始決議書ヲ未タ讀聞セサル時ハ被訴人ハ本審遷延ヲ請フヲ得

第二百十七條

選任辯護人ハ常ニ被訴人ト共ニ召喚ス可ク又臨時ニ選定セシ辯護人ハ裁判所ニ屆ケ出タル時ニ限リ召喚ス可キ者トス

第二百十八條

被訴人本審ニ就キ證人或ハ鑑定人ノ召喚或ハ其他證據物ノ送致ヲ請フ時ハ立證上必要ノ事蹟ヲ記載シテ裁判長ニ其申立ヲ爲ス可キ者トス而シテ許否ノ指令ハ被訴人ニ申渡ス可シ

裁判長ハ檢事局ニ被訴人ノ立證申立ヲ通知ス可シ但シ其申立ヲ許セシ時ニ限ル

第二百十九條

裁判長被訴人ヨリ申立テタル人ヲ召喚スルヿヲ肯セサル時ハ被訴人自カラ之ヲ呼出スヿヲ得又豫メ其申立ヲ爲サヽルモ自カラ呼出スノ權ヲ有ス

被訴人ヨリ直ニ呼出シタル人ハ呼出シノ際法律上定メタル旅費及ヒ時日空過ノ償ヲ直ニ支辨スルカ或ハ之ヲ裁判書記ニ納置セルヿヲ證明スル時ニ限リ必ス出廷スルノ義務ヲ有ス

裁判所ハ本審中ニ在テ其事件ヲ明白ナラシムル爲メニ被訴人ヨリ直ニ呼出シタル人ヲ推問スル必要ノ場合ニ際シテハ被訴人ノ申立ニ因

リ其人ニ支辨ス可キ法律上ノ償ヲ會計局ヲシテ代償セシム可キ者トス

第二百二十條

裁判長ハ申立ヲ待タスシテ證人或ハ鑑定人並ニ其他ノ證據物ノ收受ヲ命スルヲ得

第二百二十一條

被訴人ハ直ニ呼出シタル證人及ヒ鑑定人或ハ本審ノ爲メニ選任ス可キ證人及ヒ鑑定人ノ氏名居住地若クハ寄宿所ヲ定期中ニ檢事局ニ届ケ出ツ可キ者トス

本訴狀中ニ指名シ或ハ被訴人ノ申立ニ因リ召喚セシ證人或ハ鑑定人ノ外ニ檢事局ヨリ更ニ他人ヲ召喚スル時ハ裁判長ノ命(第二百二十條)或ハ自己ノ決定ニ出ルトヲ問ハス檢事局ハ亦被訴人ニ其氏名居住地若クハ寄宿所ヲ告知ス可キ義務ヲ有ス

第二百二十二條

證人或ハ鑑定人經久ノ間或ハ長短不明ノ間疾病負傷或ハ緊要ノ事故有テ本審中ニ出廷スルヲ得サル時ハ裁判所ハ委任或ハ囑託判事ニ命シテ其推問ヲ爲サシムルヲ得此場合ニ在テハ誓約ヲ許シタル時ニ限リ誓約上ノ推問ヲ爲ス者トス

路程ノ遠隔セルカ爲メニ本審中ニ出廷シ難キ證人或ハ鑑定人ヲ推問ス可キ時ニ在テモ亦同シ

第二百二十三條

前條ノ推問ヲ執行スル爲メニ確定シタル時日ハ豫メ之ヲ檢事局被訴人及ヒ辯護人ニ通知ス可キ者トス但シ之カ爲メ遲延ノ害ヲ生ス可キ時ハ通知セサルモ妨ケ無シ而シテ推問ノ席ニ出ルヲ要セス又記取シ

タル口供ハ檢事局及ヒ辯護人ニ觀示ス可シ

收監ニ處シタル被訴人ハ其監ト同地ノ裁判所ニテ推問スル時ニ限リ陪席スルヿヲ請求スル權ヲ有ス

第二百二十四條

本審ノ手續ノ爲メニ更ニ判事ノ現證ヲ取ルヿヲ要スル時ニ在テハ亦前條ノ規則ヲ施行ス可シ

第六款　本審

第二百二十五條

本審ハ判決ノ理由ヲ明審スル爲メニ召喚セシ人並ニ檢事及ヒ裁判所書記ノ始終出廷スルノ間ニ爲ス者トス

第二百二十六條

本審中ハ數名ノ檢事及ヒ辯護人互ニ戮力シ各自其擔任ヲ分ツヲ得

第二百二十七條

本審停止ニ就テノ申立ハ裁判所ニ於テ決定スル者トス暫時ノ停止ハ裁判長之ヲ命ス

辯護人故障有テ出廷シ得サルモ被訴人ハ本審ノ停止ヲ申立ルノ權無シ但シ第百四十五條ノ定規ニ害有ラサル時トス

第二百十六條中第一項ノ期日ヲ經過セル時ハ裁判長ハ被訴人ニ本審ノ停止ヲ請フヿヲ申渡ス可シ

第二百二十八條

停止セシ本審ハ遲クモ四日ヲ過キサル內ニ再ヒ繼續ス可シ己ムヲ得サルノ場合ニ在テハ更ニ本審ヲ起始ス可シ

第二百二十九條

被訴人出廷セサレハ本審ヲ開始セス

被訴人宥免ス可キ確實ノ事由無クシテ出廷セサル時ハ拘引ヲ命シ或ハ收監令ヲ發スル者トス

第二百三十條

出廷セシ被訴人ハ吟味ノ席ヲ退去スルヲ得ス裁判長ハ其退去ヲ防シ爲メニ適宜ノ規則ヲ施スヲ得又本審停止ノ間ハ被訴人ヲ拘留スルヲ得

被訴人恣ニ退去セルカ或ハ停止セシ本審ヲ再ヒ繼續スルニ當リ出廷セサル時ニ際シ訴訟ニ就テノ推問已ニ結了シ而シテ裁判所モ復タ出廷スルヲ要セスト思料スルニ於テハ其缺席中ト雖モ本審ヲ終結スル者トス

第二百三十一條

吟味ス可キ犯罪ノ所行罰金、拘留或ハ沒收ノ刑ヲ單ニ科ス可キカ或ハ

連帶シテ科ス可キ者タル時ハ被訴人出廷セスト雖モ本審ヲ執行スルヲ得

前項ノ場合ニ在テハ召喚狀ニ必ス此本審ヲ執行ス可キヿヲ記載シテ被訴人ニ指示ス可シ

第二百三十二條

裁判所ノ意見ニ從ヒ六週日以內ノ羈絆ノ刑或ハ罰金或ハ沒收ノ刑ヲ單ニ科ス可ク或ハ連帶シテ科ス可キ者ノ外ニ出テスト豫定スル時ニシテ又被訴人ヨリ其路程ノ遠隔セルニ因リ本審中ニ出廷シ得可カラサルヿヲ申立テタルニ於テハ其出廷ノ義務ヲ免除スル者トス

此場合ニ在テ若シ被訴人豫審中ニ判事ヨリ推問ヲ受ケサル時ハ委任或ハ囑託判事ヲシテ本訴ニ就テノ推問ヲ爲サシメサル可カラス

此推問ノ爲メニ定メタル時日ハ豫メ檢事及ヒ辯護人ニ告知スルヲ要

スル[illegible]雖モ推問ノ席ニ出ルヲ要セス但シ其口供ハ本審中ニ讀聞ス可キ者トス[illegible]

第二百三十三條

被訴人ノ缺席中ニ本審ヲ執行スルヲ得ルヲ以テ被訴人モ亦全權委任ノ證ヲ付シタル辯護人ニ代理セシムルノ權ヲ有ス

第二百三十四條

本審ヲ被訴人ノ缺席中ニ執行セシ時ハ被訴人ハ其判決ニ對シ判決書交付ノ後一週日內ニ復判ヲ請願シ得ルヿハ期限懈怠ニ對シ復判ヲ請願シ得ルト全ク同一ナリ

然レトモ被訴人ヨリノ申立ニ因リ本審中出廷ス可キノ義務ヲ免除シタルカ或ハ被訴人全權代理人ヲ出シ得可キノ權ニ從ヒ之ヲ出廷セシメタル時ハ復判ヲ請願スルヲ許サス

第二百三十五條

裁判所ハ何時ニテモ被訴本人自カラ出廷ス可キヿヲ命シ若シ出廷セサル時ハ拘引令或ハ收監令ヲ發シ强テ引致スルノ職權ヲ有ス

第二百三十六條

裁判所ハ其權ニ屬スル數箇ノ事件一時ニ俱發スルノ場合ニ在テハ其數件ヲ同一ノ時間ニ吟味スル爲メニ其連合ヲ爲スヿヲ命スルヲ得但シ此俱發ハ第三條ニ記載セル俱發ト異ナル時ト雖モ猶ホ連合スル者トス

第二百三十七條

對質ノ指揮被訴人ノ推問及ヒ證據ノ收置ハ裁判長之ヲ爲ス

對質ノ指揮ニ關スル裁判長ノ命令ヲ對質ニ干預セル一人ヨリ不當ナリト申立ル時ハ裁判所ニ於テ之ヲ裁決ス

第二百三十八條

檢事及ヒ被訴人ヨリ指名セシ證人及ヒ鑑定人ヲ檢事及ヒ辯護人ニ於テ推問セントスル時ハ互ニ承諾シテ之ヲ申立テタル後裁判長ヨリ命スル者トス而シテ檢事ヨリ指名セシ證人及ヒ鑑定人ハ檢事先ツ之ヲ推問シ被訴人ヨリ指名セシ證人及ヒ鑑定人ハ辯護人先ツ推問スルノ權ヲ有ス

裁判長ハ此推問ノ後其事件ヲ愈明瞭ナラシメンカ爲メニ必要ノ疑問有リト思料スル時ハ證人及ヒ鑑定人ヲ推問ス可キ者トス

第二百三十九條

裁判長ハ陪審判事ノ請ヒニ從ヒ證人及ヒ鑑定人ニ問ヲ付スルヿヲ許ス可キ者トス

裁判長ハ亦檢事被訴人辯護人並ニ陪審及ヒ參審ノ請ヒニ從ヒ證人及ヒ鑑定人ニ問ヲ付スルヿヲ許ス可シ

第二百四十條

裁判長ハ第二百三十八條第二項ノ場合ニ在テ推問ニ就テノ權ヲ濫用セシ人ニハ其權ヲ剝去スルヿヲ得

第二百三十八條第一項及ヒ第二百三十九條第二項ノ場合ニ在テハ裁判長ハ不當ノ問或ハ罪件ニ關係無キ問有レハ之ヲ制止スルヿヲ得

第二百四十一條

問ヲ付スルニ就テノ許否ニ疑ヒ有ル時ハ必ス裁判所ニ於テ之ヲ裁決ス

第二百四十二條

本審ノ開始ハ證人及ヒ鑑定人ノ召喚ト同時ニ於テ爲ス

被訴人身上ノ關係ニ就テノ推問及ヒ本審開始ニ就テノ決議ノ讀聞セ

ハ其次ニ於テ爲ス

第百三十六條ノ定規ニ從テ被訴人ノ推問ヲ其他ニ及ホシ漸次詳悉スルハ又其次ナリ

決議ノ讀聞セ及ヒ被訴人ノ推問ハ推問ス可キ證人ノ缺席中ニ於テ爲ス可シ

第二百四十三條

收證ハ被訴人推問ノ後ニ於テ爲ス

立證ノ申立ヲ受ケサルカ或ハ證據手續ヲ爲ス爲メニ本審ヲ中止ス可キ時ハ裁判所ノ決議ヲ要ス

裁判所ハ申立ヲ待チ或ハ申立ヲ待タス證人及ヒ鑑定人ノ召喚並ニ其他證據物ノ輸納ヲ命スルヲ得

第二百四十四條

收證ハ召喚セシ證人及ヒ鑑定人ノ全員並ニ他ノ輸納セシ證據物ニ及ホサヽル可カラス然レトモ檢事及ヒ被訴人同意承諾スル時ハ各收證ヲ廢棄スルヲ得

參審裁判所ニ於テノ本審中及ヒ再審裁判所タル地方裁判所ニ於テ違註罪或ハ私訴ニ就テノ本審中ハ收證ノ制限ヲ定ム此場合ニ在テハ申立或ハ立證棄却或ハ豫審決議如何ニ關係セサル者トス

第二百四十五條

證據物ノ輸納或ハ證明ス可キ事蹟ノ差出シ大ニ遲延スト雖モ之カ爲メニ立證ヲ拒ムヲ得ス

本審中ニ推問ス可キ證人及ヒ鑑定人ノ氏名ヲ原告人ヨリ被訴人ニ告知スルヿ遲延シ或ハ證明ス可キ事蹟ヲ差出スヿヲ遲延シテ被訴人之ニ關スル索偵ヲ遂ケ得可キ時間無キ時ハ之カ爲メニ收證ノ結了スル

迄ハ本審停止ヲ申請スルヲ得

檢事及ヒ被訴人ハ裁判長或ハ裁判所ヨリ召喚セシ證人及ヒ鑑定人ニ就テモ亦前項ノ權ヲ有ス

本審停止申請ニ就テノ裁決ハ裁判所ノ意見ニ任ス

第二百四十六條

係累被訴人或ハ證人ヲ本被訴人ノ前ニテ推問スレハ誠實ヲ吐露セサルノ恐レ有ル時ハ裁判所ハ其推問ノ間本被訴人ヲ訟廷ヨリ退去セシムルヲ得然レモ本被訴人ヲ再ヒ出廷セシメシ時ハ裁判長ハ先ツ其缺席中ニ申述シ或ハ其他對質セシ事件中ノ要旨ヲ告知ス可キ者トス

被訴人不當ノ所行有ルカ爲メニ裁判所ニ於テ之ヲ一時訟廷ヨリ退去セシムル時ニ在テモ亦前項ト同一ノ手續ヲ爲ス可シ

第二百四十七條

己ニ推問ヲ受ケタル證人及ヒ鑑定人ハ裁判長ノ認可或ハ指令ニ因テノミ裁判所々在ノ地ヨリ退去スルヲ得但シ裁判長ハ其前ニ檢事及ヒ被訴人ヲ推問ス可キ者トス

第二百四十八條

證書及ヒ其他證據ト爲ル可キ書類ハ本審中被訴人ニ讀聞ス可シ殊ニ既往ノ判決文、處刑錄及ヒ寺院ノ記錄、戸籍簿ノ抄冊ヲ讀聞スヲ要ス又判事ノ現證收取ニ就テノ調書モ同一ナリトス

第二百四十九條

人ノ實驗目擊ヲ以テ事蹟ノ證ト爲ス時ハ本審中ニ其人ヲ推問ス可キ者トス但シ其推問ハ是ヨリ先ノ推問ノ口供或ハ辯明書ヲ讀聞スルモ之ヲ以テ代用スルヲ得ス

第二百五十條

證人鑑定人或ハ共犯死去若クハ精神病ニ罹リタルカ若クハ居所ノ不明ナルカノ時ニハ判事ノ以前推問セシ口供ヲ讀聞スヲ得又既決ノ共犯ニ在テモ異ナルヿ無シ

第二百二十二條中ニ記載セシ塲合ニ在テ以前推問セシ口供ヲ讀聞スヿ可キ者ハ此推問ヲ本審開始後ニ行ヒタルカ或ハ第百九十一條ノ條則ニ從ヒ豫審中ニ爲シタルカノ時トス

此讀聞セハ裁判所ノ決議ヲ以テノミ命スルヲ得又讀聞セノ理由ヲ告知シ且ツ以前推問ヲ受クル人ノ誓約ヲ爲セシ者ナルヤ否ヤニ注意ス可キヲ要ス而シテ已ニ誓約ヲ爲シ推問ヲ受ケタル人ヲ再ヒ推問スルノ塲合ニ在テモ亦之カ爲メニ誓約ノ要則ニ決シテ妨害スルヿ無キ者トス

第二百五十一條

本審前ニ推問ヲ受ケタル證人本審開始ノ後ニ至テ立證不肯ノ權ニ從ヒ立證ヲ拒ミタル時ハ其推問ノ申述ヲ讀聞セサルヲ得

第二百五十二條

證人或ハ鑑定人其事蹟ニ就キ復タ思出スヿ能ハスト申立ル時ハ其助ト爲ス可キ爲メニ以前推問セシ口供中其事蹟ニ關係セル條件ノミヲ讀聞スヲ得

此推問中ニ以前推問セシ申述ト齟齬ノ事件發生シ本審ヲ中止スルニ非サレハ決シテ之ヲ確定シ或ハ消除シ得可カラサル時ニ在テハ前項ト同ク讀聞スヲ得

第二百五十三條

判事調書中ニ記入セシ被訴人ノ申述ハ首實ヲ爲サシムル爲メノ引證トシテ讀聞スヲ得

此推問中ニ以前推問セシ申述ト齟齬ノ事件發生シ本審ヲ中止セサレハ決シテ之ヲ確定シ或ハ消除シ得可カラサル時ハ亦前項ト異ナルヿ無シ

第二百五十四條

第二百五十二條第二百五十三條ノ場合ニ在テハ檢事或ハ被告ノ申立ニ依リ讀聞セ及ヒ其理由ヲ口供中ニ記入ス可キ者トス

第二百五十五條

證據或ハ斷案ニ就キ官署ヨリノ申述書(但シ風聞證據ハ之ヲ除ク)並ニ輕毀傷ニ就テノ醫師ノ診斷證書ハ讀聞スヲ得

專門科ノ官署ニ請フテ斷案ヲ得タル時ハ裁判所ハ其署ニ依賴シテ參員一名ヲ本審中ノ斷案代理ニ任シテ裁判所ニ差出サシムルヲ得

第二百五十六條

各證人鑑定人或ハ係累被訴人ノ推問後並ニ各證書類讀聞セ後ニ於テ裁判長ハ本被訴人ニ何ヲ以テ辯明セントスルカヲ問フ可キ者トス

第二百五十七條

收證終結ノ後檢事ハ其爲ス可キ要件及ヒ申立ノ爲メニ先ツ發言シ被訴人之ニ次ク者トス

檢事及ヒ被訴人ハ順次答辯ノ權利ヲ有ス

被訴人ニハ辯護人辯護ヲセシト雖モ猶ホ辯護ヲ要スルヤ否ヤヲ問フ可キ者トス

第二百五十八條

裁判上用語(獨乙語ヲ謂フ)ヲ解スルノ能力無キ被訴人ニハ通辯官ヲ以テ少ナクモ終結具申書中ニ就テ檢事及ヒ辯護人ノ申立ヲ告知ス可シ」

聾人ノ文字ヲ了解セサル者ニ於テモ亦同シ

第二百五十九條

本審ハ判決申渡ト同時ニ閉止ス而シテ此判決ハ無罪申渡、處刑申渡或ハ裁判廢止ニ限ル

裁判廢止ヲ申渡ス可キ者ハ申立ヲ待テ逮問ス可キ犯罪ニシテ（强姦身體毀傷）（誹謗等ノ犯罪如キ）其必要ナル申立無キカ或ハ申立ヲ定期內ニ取下ケタルカノ時トス

第二百六十條

裁判所ハ收證ノ果効ニ就テハ本審ノ全部中ヨリ隨意ニ參酌シテ其認定スル所ニ從ヒ裁決スル者トス

第二百六十一條

犯罪ノ刑民事裁判上ノ判決ニ關係セル時ハ刑事裁判所ハ刑事裁判手續及ヒ證據手續ノ規則ニ從ヒ亦民事裁判ヲモ裁決スルヲ得

然レトモ刑事裁判所亦民事ノ吟味ヲ止メテ訴訟ヲ差出ス可キ爲メニ期限ヲ定メテ其關係者ニ付シ或ハ民事裁判所ノ判決ヲ待ツ可キ權ヲ有ス

第二百六十二條

被訴人ノ害トナル可キ有罪無罪ノ問ニ就キ裁決ヲ爲ス時ハ三分ノ二以上ノ同議多數ヲ要スル者トス

有罪無罪ノ問ハ刑法上特ニ記載セル所ノ刑ヲ免除シ或ハ輕減シ或ハ加重スル情狀ヲモ含有ス

罪否ノ問ニハ再犯及ヒ刑期消滅ノ事件ヲ含有スルヿ無シ

第二百六十三條

判決事件ハ本訴狀中ニ記載セル事蹟ニシテ本審ノ果効ニ從フ者トス」

裁判所ハ本審開始ニ就テノ決議ノ原由ニ拘ハラスシテ隨意ニ判決ス

ル者トス

第二百六十四條

本審開始ノ決議書中ニ記シタル刑法ノ原由ヨリ他ノ原由ニ因リ被訴人ノ刑ヲ判決スル時ハ先ツ被訴人ニ法律上主旨ノ變異セルヿヲ特ニ指示シ而シテ辯護ヲ爲サシムルノ便宜ヲ得セシムルニ非サレハ判決スルヲ得ス

本審中ニ於テ始テ刑法上特ニ記載セル所ノ刑ヲ加重ス可キ情狀確定セル時モ亦前項ト同一ノ手續ヲ爲ス可シ

被訴人辯護ノ不充分ナルヿヲ主張シテ本審開始決議書中ニ記載セシ罪ヨリ重キ罪ヲ科ス可キ情狀新タニ發生セシヿヲ抗論シ或ハ前項中ニ記載セシ者ニ屬スル情狀新タニ發生セシヿヲ抗論スル時ハ被訴人ノ申立ニ因リ本審ヲ中止スル者トス

訴狀中ノ主旨ノ變異セルカ爲メニ訴狀或ハ辯護ニ就テノ豫告ヲ充分ニ盡サントスルニ本審ノ中止ヲ相當ナリト了察スル時ハ裁判所ハ亦中立ヲ待チ或ハ中立ヲ待タスシテ中止スル者トス

此第三項ノ定規ハ第二百四十四條第二項ニ記載シタル本審ニハ施行ス可カラス

第二百六十五條

被訴人ニ對シ本審ヲ開始セシ所行ノ外又他ノ事蹟ニ原因セル犯罪ノ所行同本審中ニ發覺セル時ハ檢事ノ申立ニ因リ被訴人ノ承諾ヲ以テ同本審中ニ其事件ノ判決ヲ爲ス者トス

此定規ハ後ニ發覺セシ所行重罪ナルカ或ハ其判決同裁判所ノ權限ヲ越ユル時ハ施行スルヲ得ス

第二百六十六條

被訴人ニ處刑ノ判決ヲ爲ス時ハ判決理由書ニ法律上犯罪トスル確徵ヲ證明ス可キ事蹟ヲ記載セサル可カラス其他ノ事蹟ニ因リ證據ヲ取ル時ニモ亦之ヲ記載セサル可カラス

本審中ニ在テ刑法上特ニ記載セル刑ノ免除或ハ輕減或ハ加重ノ情狀有ルヿヲ確定シテ申立タル時ハ判決理由書中ニ其情狀ノ果シテ明確ナリヤ否ヤヲ記載ス可シ

其他處刑判決ノ理由書ニハ擬用ス可キ刑法ヲ記載シ又之ヲ擬用スル爲メニ確定セル事蹟ヲ記載セサル可カラス若シ法律ニ於テ輕減ス可キ情狀ノ發生セルカ爲メニ輕刑ヲ科セントスルニ方リ其情狀ヲ參酌シテ採用スルカ或ハ本審中他方ノ申立ノ爲メニ其情狀消滅シテ採用ス可カラサルカノ時ハ之ニ就テ裁決ヲ爲シテ記載ス可シ

又被訴人ニ無罪ノ申渡ヲ爲ス時ハ其證據如何或ハ有罪トシテ申立タル事蹟ヲ何故ニ無罪ト爲スカヲ記載ス可シ

第二百六十七條

判決ノ申渡ハ本審終結ノ際或ハ遲ク𪜈終結後一週日ニ判決文ノ讀聞セ或ハ其理由書ノ解明ヲ爲ス可シ而シテ其解明ハ全文ヲ讀聞セ或ハ要旨ヲ告知スル者トス

若シ判決ノ申渡ヲ中止シタル時ハ理由書ニ其所以ヲ明記ス可シ

第二百六十八條

被訴人ヲ懲治監ニ入置スル判決書ハ法律上ノ代理人ニ交付ス可シ但シ此代理人ハ本審中ニ被訴人ノ補助トナラスシテ判決申渡ノ際出廷セシ者トス

第二百六十九條

裁判所ハ下位ノ裁判所ニ屬スル訴訟件ニ於テハ之ヲ以テ裁判權非屬

ヲ申渡スヲ得ス

第二百七十條

本審ノ果効ニ從ヒ被訴人ノ罪トナル可キ所行裁判所ノ權限ヲ越ユルニ決議ヲ以テ其非屬ヲ申渡シテ本屬裁判所ニ其事件ヲ轉移ス可シ

此轉移ノ決議ハ本審開始ノ決議ト同効ヲ有スル者ニシテ之ニ關スル必要件ニ適當セサル可カラス

其決議ニ就テ申立テタル「不服ノ當否ハ第二百九條ノ條則ニ從テ定ム

其決議ヲ參審裁判所ニテ爲シタル時ハ其申渡ノ際ニ於テ確定ス可キ期限內ニ被訴人ハ本審前立證ヲ爲サンコトヲ申立ルヲ得而シテ其申渡ノ裁決ハ罪件轉移ヲ受ケタル裁判所長ノ爲ス者トス

第二百七十一條

本審ニ就テハ必ス口供ヲ取リ而シテ裁判長及ヒ裁判書記之ニ手署ス可シ

若シ裁判長ニ故障有ル時ハ之ニ代テ陪席判事中ノ年長ノ者手署ス可シ又區判事ノ故障有ル時ハ裁判書記ノ手署ヲ以テ足レリトス

第二百七十二條

本審ノ口供中ニハ左ノ條件ヲ記入ス可シ

第一　本審ノ地及ヒ日

第二　判事陪審參審檢事裁判書記及ヒ通辯官ノ氏名

第三　訴狀中ニ記シタル犯罪

第四　被訴人其辯護人私訴人副訴人（第四百三十五條）法律上ノ代理人委任代理人及ヒ補助

第五　公判或ハ密判

第二百七十三條

口供中ニハ本審ノ經歷及ヒ結果ヲ主トシ其他必要ノ手續ヲ一覽シテ明瞭ナラシムル可シ并ニ本審中總テノ申立裁決及ヒ判決文ヲ記入ス可シ

參審裁判所ノ本審ニ在テハ前項外推問上ノ果効ニ就テノ要件ヲ口供中ニ記入ス可シ

本審中ニ生シタル各事件ノ確定或ハ口述ノ言辭或ハ辯明ニ關スル者ハ之ヲ充分ニ記載シテ讀聞セヲ爲ス可シ又口供中ニハ讀聞セシヤ判決ヲ承諾セシヤ或ハ何等ノ不服ヲ申立テタルヤヲ明記ス可シ

第二百七十四條

本審手續ヲ遵守セシヤ否ヤハ口供ヲ以テノミ證明スルヲ得而シテ此口供ノ要旨ニ就テノ不服ハ僞作ノ證ヲ立ルヿノミヲ許ス者トス

第二百七十五條

理由ヲ付シタル判決ヲ口供中ニ充分ニ記載シ得サル時ハ申渡後三日内ニ之ヲ證據書類中ニ記入ス可シ

其記入書ハ裁決ニ干預セシ判事ノ手署ヲ要ス若シ故障有テ手署ヲ爲シ得サル時ハ其理由ヲ記載シテ裁判長手署ス可シ裁判長又故障有ルニ方テハ陪席判事之ヲ爲ス者トス但シ參審ノ手署ヲ要セス

開廷ノ日ノ記載并ニ之ニ關係セシ判事參審檢事及ヒ裁判書記ノ氏名ヲ判決書中ニ記入ス可シ

判決書ノ淨書及ヒ必要ノ抄記ハ裁判書記之ニ手署シテ裁判所ノ印ヲ捺ス可シ

第七款　陪審裁判所ノ本審

第二百七十六條

前ノ第五款及ヒ第六款ノ條則ハ陪審裁判所ノ本審ニ就テモ亦施行ス

可キ者トス但シ此兩款中別ニ定規ヲ掲クル者ハ此限ニ在ラス

第二百七十七條

決議名簿（決議名簿ハ本審ノ席ニ參列シ其罪件ニ就テノ問題ヲ評議決定スル陪審者ノ氏名ヲ記載セル者ヲ謂フ）ハ本審開始ノ日ヨリ以前ニ必ス被訴人ニ下示ス可ク而シテ收監ニ處シタル者ニハ之ヲ交付シ收監ニ處セサル者ニハ裁判所書記局ニ就テ通閲セシム可シ

名簿中ニ後ニ記入シタル氏名ハ本審開始迄ニ被訴人ニ告知ス可シ

第二百七十八條

本審開始ハ抽籤ニ因テ陪審ノ席ヲ設置スルト同時ニ於テス

第二百七十九條

抽籤ノ前ニ先ツ陪審ノ任ニ不堪者或ハ審判ス可キ事件ニ就テ法律上除職ス可キ者ヲ退去スル者トス又出廷シタル陪審ニハ若シ除職ノ事由有レハ申立ツ可キヿヲ督促ス可シ

陪審除去ニ就テノ裁決ハ其陪審ヲ訊問シタル後裁判所ニ於テ爲ス者トス此裁決ハ歎訴スルヲ許サス陪審ノ任ニ不堪ヿヲ申渡サレタル人ハ其名簿中ノ名ヲ塗抹ス可シ

第二百八十條

前條ノ定期ニ從ヒ退去セシ陪審ヲ除キ現ニ出席セシ陪審ノ數二十四名以上ニ至レハ陪審席ノ設置ヲ爲スヲ得若シ然ラサル時ハ補充陪審名簿中ヨリ選定シテ三十名迄ニ補充ス可キ者トス

此補充陪審ハ公廷ニ於テ裁判長抽籤ヲ以テ之ヲ定ム而シテ其補充ハ開廷期限中審判ス可キ事件ニ就テ總テ効力ヲ有ス

抽籤ニ當リタル豫備陪審ノ召喚狀ニハ若シ故無ク不參スル時ハ法律上ノ罪有ルヿヲ指示ス可ク又其氏名ハ決議名簿中ニ記入ス可シ

補充陪審出廷シ陪審ノ數二十四名ニ滿チタル時ハ陪審席ノ設置ヲ爲スヲ得

以後ニ至リ同本審ニ三十名以上ノ陪審出廷スル時ハ補充陪審抽籤ノ順序ノ逆ニ從ヒ過剩數ノ補充陪審ヲ退去セシム可シ

第二百八十一條

陪審席ノ設置ハ公廷ニ於テ之ヲ爲シ抽籤ハ裁判長ノ爲ス者トス

第二百八十二條

籤壺中ニ十二名以上ノ人名有ル時ハ抽籤セシ陪審ノ中ヨリ同數ヲ除廷スルヲ得

其除廷スル陪審ノ半ハ檢事ニ半ハ被訴人ニ屬セシム若シ除廷全數ニ奇數有ル時ハ被訴人ニ其數ヲ增加ス

第二百八十三條

一人ノ名ヲ抽籤シテ讀上ケタル時ハ檢事先ツ可或ハ否ノ辭ヲ以テ其採用ト否トヲ申述ス可ク次テ被訴人亦此ノ如クス然レ𪜈其可否ノ理由ヲ付スルヲ許サス

若シ何事ヲモ申述セサル時ハ可ト見做ス可シ

次ノ人名ヲ抽籤シタルカ或ハ總抽籤ノ終結ヲ告知セシ時ハ前ノ申述ヲ取消スヲ得ス

第二百八十四條

本審ノ際被訴人數名有ル時ハ除廷權ヲ共通シテ行フヲ得

被訴人一致ヲ爲サヽル時ハ被除廷員ヲ折半ス若シ折半セスシテ除廷ヲ行ヒ幷ニ申述ノ順序ヲ定ムルニ就テハ抽籤ヲ以テ決定ス

第二百八十五條

若シ補充陪審ヲ加用スル時ハ除廷シ得可キ陪審ノ數ヲ補充陪審ノ數

ニ應シテ減少ス可シ

補充陪審ヲ數多加用スル時ハ抽籤ヲ以テ其順序ヲ定ム

第二百八十六條

同日ニ數件ノ本審有ル時陪審ノ誓約前ニ其關係ノ被訴人及ヒ檢事ヨリ同一ノ席ヲ以テ引續キ審判有ランコトヲ一致シテ申立テタル時ハ同席ニテ次ノ本審ヲ爲シ或ハ數件ノ本審ヲ順次ニ爲ス者トス

第二百八十七條

本審中止ノ後復タ其本審ヲ開始スル時ハ陪審席ヲ更ニ設置ス可キ者トス

第二百八十八條

陪審席設置ノ後陪審ハ其裁判ス可キ被訴人ノ目前ニ於テ誓約ヲ爲サヽル可カラス

其誓約ハ公廷ニ於テ爲ス可シ

裁判長ハ誓約ヲ爲ス可キ陪審ニ左ノ言辭ヲ述フ

汝ハ萬通力無限權者タル天帝ニ向テ何某ニ對スル公訴事件ニ關シ陪審ノ職務ヲ誠實ニ盡シ且ツ良智良心ヲ以テ發言ス可キヲ誓ハレヨ

各陪審ハ左ノ言辭ヲ述ヘテ誓約ヲ爲ス

我レ其言ノ如ク天帝ニ向テ之ヲ誓フ果シテ天帝モ亦冥護スル處有ラン

陪審ハ誓約ヲ爲スノ際右手ヲ擧ク可シ

陪審此誓約ノ代リニ宗教上ノ誓式ニ從フヲ法律ニ於テ明許スル教會ノ徒ナル時ハ其會ノ誓式ニ從フヲ以テ法律上誓約ヲ爲シタル者ト同視ス

第二百八十九條

各陪審ノ誓約畢リタル後公訴本件ノ對質ニ取掛ル者トス

第二百九十條

裁判長ハ陪審ニ付シテ其答ヲ爲サシム可キ問題ノ案ヲ作ル者トス

裁判長ハ收證結了ノ後其題案ヲ陪審ニ讀聞ス可シ又陪審檢事及ヒ被訴人ニ其題案ノ寫ヲ付スルヲ得而シテ之ニ就テノ申立ニ答辯ス可キ者トス

檢事或ハ被訴人或ハ陪審一名ノ請ヒニ依リ問題審査ノ爲メニ時間ヲ要スル時ハ暫時本審ヲ止ムル者トス

第二百九十一條

檢事及ヒ被訴人幷ニ各陪審ハ問題ノ缺欠ヲ檢視シ其改正及ヒ補充ヲ申立ルノ權ヲ有ス

不服ヲ申立テタルカ或ハ他ノ申立ヲ爲シタルカ或ハ判事ノ一名改正若シハ補充ヲ請ヒタル時ハ裁判所ニ於テ更ニ問題ヲ確定シ而シテ之ヲ讀聞ス可シ

第二百九十二條

問題ハ陪審ニ諾或ハ否ヲ以テ答辯シ得可カラシムル者トス

前問題確定スル場合ニ限リテ後問題ヲ答ヘシム可キ時ニ在テハ先ツ其旨ヲ告知ス可キ者トス

被訴人數名ナルカ或ハ犯罪ノ所行數多ナル時ハ各被訴人及ヒ各犯罪ノ所行ニ就キ各箇ニ問ヲ付ス可キ者トス

第二百九十三條

本問題ハ先ツ被訴人ノ有罪ナルカ無罪ナルカノ語ヲ以テ始ム可シ而シテ被訴人ヲ罪ス可キ所行ヲ法律ノ徵證ニ從テ明記シ且ツ其區別ヲ

分明ナラシム可キ爲メニ必要ナル情況ヲ記載セサル可カラス

第二百九十四條

被訴人ヲ罪ス可キ所行ニ就キ本審開始ノ決議ヨリ他ノ理由ニ從テ判決ス可シト認定スル情況本審中ニ於テ發起シタル時ハ之ニ就テノ問(補助問題)ヲ付ス可キ者トス

若シ開始決議外ノ理由ニ因テ爲ス判決加重ス可キ刑科ニ原由スル時ハ決議問題ノ前ニ先ツ補助問題ヲ付ス可シ

第二百九十五條

己ムヲ得サルノ場合ニ在テハ刑法上特ニ記載セル所ノ刑科ヲ輕減シ或ハ加重ス可キ情狀ニ就キ陪審ニ特別ノ問(副問題)ヲ付ス可キ者トス」刑法上特ニ記載セル所ノ刑科ノ消滅ス可キ情狀ニ就テモ亦此副問題ヲ付スルヲ得

第二百九十六條

補助問題或ハ副問題ノ下付ヲ申立テタル時之ヲ肯セサルヲ得可キ者ハ只法理ニ基ツキ辯明ス可キ時ニ限ル者トス

第二百九十七條

法律ニ於テ輕減ス可キ情狀發起シ輕刑ヲ科ス可キ場合有ルニ方テハ檢事或ハ被訴人ヨリ申立ルカ或ハ申立ヲ待タスシテ副問題ヲ付スル者トス

輕減ス可キ情狀發起シタルニ就テノ問題ハ少クモ七人ノ多數有ルニ非サレハ取消スヲ得ス

第二百九十八條

被訴人犯罪ノ際十八歳未滿ナル時ハ其所行ヲ爲スニ方テ刑ニ處セラル可キ者ト識別スル智力ヲ具有セシヤニ就テノ副問題ヲ付スルヲ以

テ須要ト爲ス

被訴人聾啞人ナル時モ亦同シ

第二百九十九條

有罪無罪ノ問ノ爲メニ檢事及ヒ被訴人ノ申立及ヒ辯明ハ問題ニ附加ス可シ

第三百條

裁判長ハ陪審ノ要務ヲ盡スニ必要ナル曲直ノ着點ヲ敎示スル者トス

但シ證據ノ効力ニ及フ可カラス

裁判長ノ敎示ハ決シテ事實ノ解明ヲ爲スニ至ル可カラス

第三百一條

裁判長問題ニ手署ヲ爲シテ陪審ニ交付シ而シテ陪審ハ會議局ニ退キ被訴人ハ訟廷ヲ退ク可シ

第三百二條

本審中陪審ニ實檢ノ爲メ下示セシ物品ハ會議局中ニテモ亦交付スルヲ得

第三百三條

會議局中ニ集會セル陪審ト他人トハ決シテ交際スルヲ許サス

裁判長ハ陪審許可ヲ受ケスシテ會議局ヲ立去ルヿ無キヤ否ヤ及ヒ他人ノ該局ニ入ルヿ無キヤ否ヤヲ監視ス可キ者トス

第三百四條

陪審ハ書類上ノ決議ニ依リ多數ニ從テ其議長ヲ選定ス可シ若シ同數ナル時ハ最高年ノ陪審其裁決ヲ爲ス可シ

議長ハ發議及ヒ決議ヲ指令ス

第三百五條

陪審ハ之ニ下示セシ問題ニ就テ諸或ハ否ヲ以テ答フ可シ

陪審ハ半決答ヲ爲スノ權有リトス（被訴人ノ有罪ハ素ヨリ然リト雖モ其中何々ノ事項ハ證明シ得サルトキ答ノ如キ是ナリ）

第三百六條

陪審決定ヲ爲ス前ニ更ニ教示ヲ裁判長ニ要ス可シト思料スル時ハ決定ノ爲メ會議局ニ入タル後申立ニ從ヒ教示スル者トス

若シ問題ノ改正或ハ補充ヲ要ス可キ原由發起セシ時ハ會議ニ必ス被訴人ヲ立會ハシム可キ者トス

第三百七條

議長ハ問題ノ外ニ決定ヲ記載シテ之ニ手署ヲ爲ス可シ

被訴人ノ害ト爲ル可キ各裁決ヲ爲ス時ハ七名以上ノ多數ヲ要シ又輕減ス可キ情狀ヲ取消ス時ハ六名以上ノ多數ヲ要ス其他ノ場合ニ在テハ多數少數ヲ定ムルヲ要セス

第三百八條

議長ハ會議局中ニ於テ決定ヲ告知シ左ノ言辭ヲ述フ

予ハ陪審諸員ノ決定トシテ證明スルノ名譽及ヒ良心ヲ有ス

而シテ下示セラレシ問題ト其答辭トヲ讀聞ス者トス

裁判長及ヒ裁判書記ハ讀聞セタル決定書ニ手署ヲ爲ス可シ

第三百九條

裁判所ニ於テ決定書ノ體式定規ニ適セサルカ或ハ事實ノ不明ナルカ或ハ不充分ナルカ或ハ齟齬ノ件有リト思料スル時ハ裁判長ハ缺ヲ補正ス可キ爲メニ陪審ニ會議局ニ入ル可キヿヲ命ス

裁判所ハ決定ニ基ツキテ判決申渡ヲ爲サヽル間ハ前項ノ命令ヲ爲スヲ得

第三百十條

決定書ノ式ニ關スル缺ヲ補正スルニハ其事件ニ就テノ改正ヲ爲ス可カラス

第三百十一條

決定書ノ事件ニ關スル缺ヲ補正スル爲メニ更ニ會議ヲ起ス時ハ陪審ハ以前ノ決定ニハ全ク拘ハラサル者トス

若シ此缺ヲ說明スルニ方リ問題ノ改正或ハ補充ヲ要ス可キ理由發起セル時ハ必ス會議ニ被訴人ヲ立會ハシム可キ者トス

第三百十二條

改正決定ヲ記載スルニハ以前ノ決定ヲ認了ス可キ方法ニ從フ可シ

第三百十三條

陪審ノ決定書ハ陪審會議局ニ再ヒ入タル後ニ被訴人ニ讀聞セテ告知ス可シ

第三百十四條

陪審被訴人ニ全ク罪無シト申述スル時ハ裁判所ハ被訴人ニ無罪ノ申渡ヲ爲ス者トス

若シ然ラサレハ判決申渡前ニ必ス檢事及ヒ被訴人ニ其申立ト執行セシ事件ヲ訊問ス可キ者トス

第三百十五條

本審ハ判決申渡ト共ニ終結ス

第三百十六條

判決ノ理由ハ必ス陪審ノ決定ニ關係セサルヲ得ス而シテ決定書ノ本書ハ判決書ニ附加セサル可カラス

第三百十七條

裁判所ニ於テ本審中陪審被訴人ノ害ト爲ル可キ事項ニ就テ誤認セシトノ說一致スル時ハ其說ニ就キ理由ヲ付セス裁判所ノ決議ヲ以テ後期ノ陪審裁判所ニ轉移シテ其事件ノ爲メニ更ニ本審ヲ執行セシムル者トス而シテ此轉移ハ判決中渡ノ前ニシテ官ニ於テノミ爲スヲ得可キ者トス

數多ニシテ各箇ニ屬スル犯罪ノ所行或ハ數名ノ被訴人ニ就テ本審ヲ行ヒタル時其轉移ハ裁判所ノ意見ニ從ヒ陪審ノ誤認セシト思料スル犯罪及ヒ被訴人ニ限ル者トス

再本審ノ際ニハ以前ノ決定ニ干預セシ陪審ハ一人ニテモ加ハルヲ得ス

判決ハ必ス再本審ニ就テ決定ノ理由ニ從ハサル可カラス

第八款　缺席裁判

第三百十八條

被罪者ノ不在ト見做ス可キ者ハ其寄宿所ノ不明ナルカ或ハ外國ニ寄宿シテ所屬裁判所ニ出廷シ得可カラサルカ或ハ出廷スルモ管轄ノ異ナル時トス

第三百十九條

不在ノ被罪者ニ對シ本審ヲ開始シ得可キハ吟味事件トナル可キ犯罪ノ所行罰金或ハ沒收ヲ單ニ科シ或ハ連帶シテ科ス可キ者ナル時ニ限ル

此本審ニ就テハ第三百二十條乃至第三百二十六條ノ規則ヲ施行ス可シ

第三百二十條

被訴人ノ寄宿所不明ナルカ或ハ在外國交付規則ニ從テ呼出シヲ爲シ

得サルカ或ハ其規則ヲ執行スルモ効無キヿヲ豫知スルノ場合ニ在テ本審ノ召喚ヲ爲ス時ハ確實ナル召喚狀ノ寫ヲ本審開始ノ日迄裁判所掲示板ニ貼付ス可キ者トス若シ然ラサレハ召喚狀ヲ抄出シテ管轄內ノ官令廣告及ヒ其他ノ新聞紙ニ記載シ三回公告ス可シ第三回ノ公告ノ日ト本審開始ノ日トノ間ハ少クモ一箇月ヲ隔テサル可カラス

第三百二十一條

召喚狀中ニハ左ノ事項ヲ含有ス可キ者トス

被訴人ノ姓名其他年齡身分營業居住地或ハ寄留地又被訴人ヲ罪ス可キ犯罪ノ所行幷ニ本審ノ日時

同時ニ又左ノ文ヲ追加ス可シ

被訴人ニ於テ宥恕ス可キ事由無クシテ出廷セサル時ハ本審ニ取掛ル可シ

第三百二十二條

被訴人ハ本審中ニ辯護人ヲ出スヲ得又其關係者（兄弟姉妹從兄弟親友等ヲ謂フ）ヲ代人トシテ出スヲ得但シ關係者ニハ全權委任證ヲ付スルヲ要セス

第三百二十三條

判決書ノ交付ハ第四十條第二項ノ定規ニ從テ行フ者トス

第三百二十四條

第三百二十二條ニ記載シタル人ハ被罪者ニ屬スル伸寃訴ノ權ヲ行フヲ得

第三百二十五條

判事被告人ニ最重罰金ノ刑ヲ科ス可キト豫定シ其金額徵收ノ爲メ或ハ裁判費ニ就キ保證ヲ必要ナリト思料スル時ニ限リ被告人ニ屬スル諸物品ヲ押收スルヲ得而シテ此押收ニハ亦物品押收ノ決行及ヒ効用

ニ就テノ訴訟法手續規則ヲ施行ス可シ若シ押收ス可キ事理消滅スル時ハ其押收ヲ廢止ス可シ

第三百二十六條

前條ノ規則ニ從ヒ保證ヲ爲シ得サルト思料スル時ニ限リ裁判所ノ決議ニ依リ帝國內ニ存スル被告人ノ財產ヲ押收スルヲ得此決議ハ獨乙帝國新聞紙ニテ公告ス可シ或ハ裁判所ノ意見ニ從ヒ其他ノ新聞紙ニテ公告スルヲ得

裁判所ノ決議ヲ獨乙帝國新聞紙ニテ公告シタル後ハ被告人押收財產ニ就テ處分ヲ爲スモ會計局ニ對シテハ決シテ効無キ者トス

財產押收ハ其事理ノ消滅スルカ或ハ第三百二十五條ニ從テ押收シ保證ヲ爲シタル時ハ廢止ス

押收ノ廢止ハ初メ押收ヲ公告セシ同新聞紙ニテ公告ス可シ

第三百二十七條

第三百十九條中ニ記載セル場合ノ外ニハ缺席人ニ對シ本審ヲ開始セス缺席人ニ對シ開始セシ吟味ハ後日其出廷セシ時必ス證據ヲ確實ナラシム可キ者トス

此本審ニ在テハ第三百二十八條乃至第三百三十六條ノ定規ヲ施行ス可シ

第三百二十八條

被告人缺席スト雖モ猶ホ辯護人ヲ出スヲ得而シテ辯護人ヲ選定スルノ權ハ亦被告人ノ關係者ニモ屬スル者トス

證人及ヒ鑑定人ハ誓約ヲ爲シタル上ニテ推問ス可シ

第三百二十九條

缺席ノ被告人ハ吟味ノ經歷ニ就テノ報告ヲ請求スルノ權無キ者トス」

然レトモ判事ハ寄宿所ノ明白ナル缺席人ニ前項ノ報告ヲ爲スノ權ヲ有ス

第三百三十條

寄宿所ノ不明ナル缺席人ニハ新聞紙ヲ以テ裁判所ニ出廷ス可キヿ或ハ其寄宿所ヲ届出ツ可キヿヲ催促スルヲ得

第三百三十一條

本審開始ノ後始テ被訴人ノ不在ナルヿヲ知了セル時猶ホ收證ヲ必要トスルニ於テハ委任或ハ囑託判事ヲシテ之ヲ執行セシム可シ

第三百三十二條

公訴ヲ受ケタル不在ノ人ニ收監令ヲ發ス可キ嫌疑ノ事由有ル時ハ裁判所ノ決議ニ依リ獨乙帝國内ニ存在スル財産ヲ押收スルヲ得

前項ニ記載セル押收ハ參審裁判所ノ權ニ屬スル刑事ニハ施行ス可カラス

第三百三十三條

押收ヲ命スル決議ハ獨乙中心新聞紙ヲ以テ公告ス可キ者トス亦裁判所ノ意見ニ從ヒ其他ノ新聞紙ヲ以テ公告スルヲ得

第三百三十四條

獨乙中心新聞紙ヲ以テ第一回公告ヲ爲シタル日ヨリ被告人ハ押收財産ニ就キ處分スルモ決シテ其効無キ者トス

押收ヲ命スル決議ハ不在者ニ後見人ヲ指定ス可キ權有ル官署ニ告知ス可シ而シテ此署ハ押收財産ノ保護ヲ爲ス可キ者トス

第三百三十五條

押收ハ其事由ノ消滅シタル時ハ廢止ス可キ者トス

押收廢止ノ公告ハ最初押收ニ就テノ公告ヲ爲シタルト同新聞紙ヲ以

テス可シ

第三百三十六條

其他公訴提起後ノ吟味ニ就テハ亦豫審手續ヲ施行ス可シ

此吟味終結後ニ申渡ス決議(第百九十六條)ニ因テ同時ニ亦押收ノ繼續若クハ廢止ヲモ裁決ス

第三百三十七條

裁判所ハ不在ノ被告人ニ保釋ヲ許スヲ得而シテ此保釋ヲ許スニ就テハ禁約ヲ爲スヲ得(第百十七條以下保釋ノ條參考)

保釋ハ收監ヲ免除スル者トス然レトモ其効ハ保釋ヲ許シタル犯罪ノミニ限ル

羈絆ノ刑ニ處ス可キ判決ヲ爲スカ或ハ逃亡ヲ企テタルカ或ハ禁約ヲ遵守セサル時ハ保釋ハ消滅スル者トス

第三卷　伸寃訴ノ總稱(不服訴)

第一款　總則

第三百三十八條

裁判所ノ裁決ニ對シ明許セシ伸寃訴ハ檢事及ヒ被罪者ニ屬スル者トス

檢事ハ被罪者ノ爲メニモ亦伸寃訴ヲ爲スヲ得

第三百三十九條

辯護人ハ被罪者ニ代リ伸寃訴ヲ爲スヲ得レトモ被罪者ノ明言シタル意思ニ違フテ爲スヲ得サル者トス

第三百四十條

被罪者ノ法律上代理人(被罪者ノ父母兄弟從兄弟等ヲ謂フ)幷ニ被罪ノ婦ノ本夫ハ其委任ヲ受ケスト雖モ被罪者ノ爲メニ定メタル期限內ニ明許セシ伸寃訴

ヲ獨自爲スヲ得

此伸寃訴及ヒ吟味ニ就テハ被罪者自己ノ伸寃訴ニ就テノ規則ヲ同ク施行ス可キ者トス

第三百四十一條

收監ヲ受ケタル被罪者ハ其監所屬裁判所ノ裁判書記ニ伸寃訴ノ申述ヲ口供ニ記取セシムルヲ得若シ裁判所ニ屬セサル時ハ其監所在地ノ區裁判所ノ裁判書記ニ申述ヲ記取セシムルヲ得

伸寃訴定期內口供ニ記取セシメタル時ハ其期限遵守ハ之ヲ以テ足レリトス

第三百四十二條

明許セシ伸寃訴ニ記載セル事項ニ就キ假令迷誤有ルモ之カ爲メニ害ヲ被ルヿ無シトス

第三百四十三條

檢事ヨリ差出シタル各伸寃訴ハ被罪者ノ爲メニモ亦被爭裁決（原告若クハ被告ヨリ不服ヲ申立テタル初審裁判所ノ原裁決ヲ謂フ以下皆同シ）ヲ變更シ若クハ廢止スルノ効有ル者トス

第三百四十四條

伸寃訴ノ取下ケ幷ニ其提起ノ棄却ヲ爲スト雖モ定期ヲ經過セサル間ハ復タ提起スルヲ得ル者トス然レトモ檢事ヨリ被罪者ノ爲メニ差出シタル伸寃訴ハ被罪者ノ承諾ヲ得サレハ取下ケヲ得サル者トス

辯護人伸寃訴ヲ取下クル時ハ之ニ就テノ全權委任ヲ得サル可カラス

第三百四十五條

口審ノ理由ニ基ツキ伸寃訴ノ裁決ヲ爲ス可キ時ハ對手ノ承諾ヲ得サレハ本審開始後ニ至テ取消スヲ得ス

第二款　歎訴等ニ對スル不服ノ訴ヲ謂フ（總テ判決前ニ係ル決議命令）

第三百四十六條

歎訴ハ初審裁判所或ハ控訴裁判所ヨリ申渡ス諸決議及ヒ裁判長豫審判事區判事及ヒ委任或ハ囑託判事ノ命令ニ對シテ爲スヲ得但シ法律上ニ於テ歎訴ヲ爲スヲ許サヽル者ハ此限ニ在ラス

又證人鑑定人及ヒ其他ノ人ハ其身ニ關スル決議及ヒ命令ニ對シ歎訴スルヲ得

上等地方裁判所及ヒ帝國高等裁判所ノ決議及ヒ命令ニ對シテハ歎訴スルヲ得ス（帝國高等裁判所ハ我カ現行治罪法ニ載スル處ノ大審院ノ權限ト高等法院ノ權限トヲ併有スル者ナリ）

第三百四十七條

判決裁判所（判決裁判所ハ本審ヲ開始シテ其果効ニ從ヒ律ニ照シ判決ヲ爲ス者ヲ謂フ凡ソ一裁判所內ニハ必ス豫審裁判所ト判決裁判所トノ二有リ但シ參審ニ於テ判決前ニ申渡ス裁決ハ歎訴スル

ヲ得ス但シ收監押收或ハ刑ノ確定ニ就キ並ニ原被外ノ人ニ關スル諸裁決ハ此限ニ在ラス

第三百四十八條

歎訴ハ被爭裁決ヲ爲シタル原裁判所或ハ裁判長ノ所屬裁判所ニ就テ裁判書記ニ不服申立ヲ口供ニ記取セシメ或ハ書面ヲ以テ爲スヲ得己ムヲ得サルノ場合ニ在テハ亦歎訴裁判所ニ差出スヲ得

被爭裁決ヲ爲シタル原裁判所或ハ裁判長歎訴ヲ理由有リト認定スル時ハ其事件ヲ改正ス可シ若シ然ラサル時ハ歎訴ヲ即日或ハ遲クモ三日內ニ歎訴裁判所ニ廻送ス可シ

前項ノ定規ハ豫審中區判事ノ裁決或ハ委任若クハ囑託判事及ヒ豫審判事ノ裁決ニ就テモ亦施行ス可キ者トス

第三百四十九條

歎訴ハ被爭裁決ノ決行ヲ停止スルノ効力無キ者トス

然レトモ又被爭裁判ヲ爲シタル原裁判所或ハ裁判長或ハ判事並ニ歎訴裁判所ハ其裁決ノ決行ヲ停止スルノ權ヲ有ス

第三百五十條

歎訴裁判所ハ歎訴原告ノ對手(歎訴被告)ニ書面ヲ以テ答辯ス可キヿヲ命スルヲ得又必要ナル事件ノ探偵ヲ他人ニ命シ或ハ自カラ之ヲ執行スルヲ得

第三百五十一條

歎訴ノ裁決ハ口審ヲ要セス但シ都合ニ依リ裁決前ニ檢事ニ訊問スル者トス

歎訴裁判所ハ歎訴ヲ理由有リト認定スル時ハ同時ニ又其事件ニ就テ必要ナル裁決ヲ爲ス者トス

第三百五十二條

歎訴裁判所タル地方裁判所ニテ申渡ス決議ニ對シテハ只收監令ニ就テノ決議ニ限リ歎訴スルヲ得

其他ノ場合ニ在テハ歎訴裁判所ニテ申渡ス裁決ニ對シ復タ歎訴ヲ爲スヲ得ス

第三百五十三條

即時歎訴ノ場合ニ在テハ左ノ規則ヲ施行ス可シ

此歎訴ハ裁決申渡(第三十五條)ト同時ニ起算スル一週ノ期限内ニ差出ス可キ者トス又歎訴裁判所ニ歎訴ヲ爲スモ期限ノ遵守ハ之ヲ以テ足レリトス但シ同所ニ歎訴スルニ就テハ己ムヲ得サルノ事情有リト認定ス可カラサル時ト雖モ亦妨ケ無キ者トス

裁判所ハ其歎訴ニ因テノ被爭裁決ヲ自カラ變更スルノ權無キ者トス

第三款　控訴

第三百五十四條

控訴ハ參審裁判所ノ判決ニ對シテ爲スヲ得

第三百五十五條

控訴ハ判決申渡後一週ノ期限內ニ初審裁判所ノ裁判書記ニ申述ヲ口供ニ記取セシメ或ハ書面ニテ差出スヲ得

判決申渡ヲ被訴人ノ不在中ニ行ヒタル時ハ控訴期限ハ交付ト同時ヲ以テ起始スル者トス

第三百五十六條

控訴期限ノ起始ハ不在ノ被訴人ニ申渡シタル判決ニ對シ復判請願ヲ爲シ得ルト雖モ之ニ依テ停止スルコト無シ

被訴人復判ヲ請願スル時其却下ノ場合ニ供センカ爲メニ定期中直ニ

控訴ヲ差出スニ非サレハ控訴ハ無効ニ屬ス若シ其期中ニ控訴ヲ差出ス時ハ控訴ニ就テノ爾後ノ命令ハ復判請願ノ終結ニ至テ發スル者トス

若シ控訴ヲ提起スル時復判請願ヲ附帶セサレハ此請願ハ棄却セル者ト見做ス可シ

第三百五十七條

控訴ヲ定期內ニ提起スル時ハ被爭判決ノ決行ヲ停止スル者トス

理由ヲ記シタル判決書ヲ交付セサル控訴原告ニハ控訴提起後其判決書ヲ交付ス可キ者トス

第三百五十八條

控訴ハ伸冤訴提起期限經過セシ後一週內ニ初審裁判所ノ裁判書記ニ辯明ヲ口供ニ記取セシメ或ハ控訴狀中ニ記載スルヲ得若シ控訴期限

内ニ判決書ヲ交付セサレハ其交付ノ後一週内ニ前ノ手續ヲ爲ス可シ

第三百五十九條

控訴ハ不服ノ事項ヲ限リテ爲スヲ得若シ限ルヿヲ得サルカ或ハ一定ノ辯明ヲ爲サヽル時ハ判決ノ全旨ニ不服ト見做ス可シ

第三百六十條

控訴ノ提起其期ニ後レタル時ハ初審裁判所ハ之ヲ却下スルヲ得

控訴原告ハ控訴ニ付テノ決議書ヲ交付セラレシ後一週内ニ控訴裁判所ノ裁決ヲ受ケンヿヲ申立ルヲ得此場合ニ在テハ證據書類ヲ控訴裁判所ニ送致ス可キ者トス然レトモ其送致ノ爲メニ判決申渡ノ決行ヲ停止セサル者トス

第三百六十一條

裁判書記ハ控訴ヲ定期内ニ爲シタル時辯明ノ期限經過セシ後ハ辯明ヲ爲セシト否トヲ問ハス證據書類ヲ檢事局ニ廻送ス可シ若シ檢事局控訴ヲ提起シタル時ハ被訴人ニ控訴ノ提起及ヒ辯明ニ就テノ書類ヲ交付スル者トス

第三百六十二條

檢事局ハ證據書類ヲ控訴裁判所ノ檢事局ニ送達シ該局ハ一週内ニ之ヲ裁判所長ニ差出ス可シ

第三百六十三條

控訴裁判所ハ控訴規則ニ從フ可カラスト確定スル時ハ決議ヲ以テ伸冤訴ヲ不當トシ却下スルヲ得然ラサル時ハ伸冤訴ニ就テ判決ヲ爲ス者トス

此決議ハ即時歎訴ヲ爲スヲ得

第三百六十四條

控訴本審ノ豫備ニハ第二百十三條及ヒ第二百十五條乃至第二百二十四條ノ條則ヲ施行ス可シ又召喚狀中ニハ被訴人故無ク出廷セサル時ハ之ヲ罰ス可キノ明文ヲ記入ス可シ

初審裁判所ニ於テ推問ヲ受ケタル證人及ヒ鑑定人ハ之ヲ召喚スル者トス但シ控訴事件ノ審檢確實ニシテ再ヒ推問スルヲ要セスト思料スル時ハ此限ニ在ラス

控訴中更ニ證據物ヲ取ルヲ許ス

召喚ス可キ證人及ヒ鑑定人ヲ選フノ際ニハ控訴ニ就テ辯明ノ爲メニ被訴人ヨリ指名セシ人ニ注意ス可キヲ要ス

第三百六十五條

第二百四十二條第一項ノ條則ニ從ヒ本審ヲ開始シタル後説明者ハ初審裁判ノ果効ニ就キ説明ヲ爲ス者トス但シ證人ノ目前ニ於テス可カラス又初審裁判所ノ判決ヲ讀聞ス可キ者トス

其次ニハ被訴人ヲ推問シ又收證ヲ爲ス

第三百六十六條

説明及ヒ收證ノ際ニハ書類ヲ讀聞ヲヲ得而シテ證人及ヒ鑑定人ヲ再ヒ召喚スルカ或ハ被訴人ヨリ本審前正當ノ期日内ニ其召喚ヲ申立テタル時ニシテ初審裁判所ノ本審中ニ推問ヲ受ケタル證人及ヒ鑑定人ノ申述ニ就テノ口供ヲ讀聞スニハ必ス檢事及ヒ被訴人ノ承諾ヲ要スル者トス但シ第二百五十條及ヒ第二百五十二條ノ場合ハ此限ニ在ラス

第三百六十七條

收證結了ノ後ハ檢事並ニ被訴人及ヒ辯護人ニ其辯明及ヒ申立ニ就テ訊問ス可ク就中控訴者ヲ最初ニ訊問ス可シ而シテ被訴人ハ最終答辯ノ權ヲ有ス

第三百六十八條

裁判所ハ被爭判決ニ限リ審査ヲ爲ス可キ者トス

控訴裁判所ハ控訴ヲ理由有リトスル時ニ限リ其事件ニ就テノ原判ノ破毀ヲ申渡ス可キ者トス

第三百六十九條

控訴裁判所ハ控訴ヲ理由有リト認ル時ハ專ラ控訴事件ニ付テ判決ス可キ者トス

原判治罪法ノ手續規則ヲ犯害シタルカ爲メニ上告ヲ爲ス可キ缺有ル時ハ控訴裁判所ハ判決ヲ破毀シ若シ已ムヲ得サル事情有レハ其事件ヲ初審裁判所ニ還附シテ裁決ヲ爲サシムルヲ得

初審裁判所ニ於テ裁判權非屬ノ判決ヲ爲シタル時ハ控訴裁判所ハ其事件ヲ其權所屬ノ裁判所ニ轉移ス可シ若シ初審裁判所ニ於テ裁判權所屬ノ判決ヲ爲シタル時ハ控訴裁判所ハ其不服事件ニ就テノ判決ヲ爲ス者トス

第三百七十條

本審開始ノ際被訴人出廷セス或ハ代理ヲ許ス場合ニ在テ代理人出廷セス而シテ其出廷セサルニ宥免ス可キ充分ノ理由無キ時ニ方リ控訴ノ原告被訴人ナル時ハ之ヲ却下シ若シ檢事ナル時ハ之ニ就テノ本審ヲ執行シ或ハ被訴人ヲ拘引シ或ハ收監ニ處スル者トス

被訴人ハ判決書交付後一週內ニ第四十四條第四十五條中ニ記載シタル定規ニ從ヒ復判請願ノ權ヲ有ス

第三百七十一條

第三百四十條中ニ記載セシ人ノ一名ヨリ控訴ヲ差出シタル時ニ在テモ裁判所ハ亦本審ノ爲メニ被訴人ヲ召喚ス可キ者トス若シ召喚ニ應

シ出廷セサル時ハ強制シテ拘引セシムルヲ得

第三百七十二條

原判ニ對シ被訴人ヨリ或ハ被訴人ノ爲メニ檢事ヨリ或ハ第三百四十條中ニ記シタル人ノ一名ヨリ不服ヲ申立ル時ハ其判決ヲ變異シテ被訴人ニ害ヲ被ラシムルヲ得ス

第三百七十三條

其他本審ニ就テハ第二卷ノ第六款中本審條則ヲ施行スル者トス

第四款　上告

第三百七十四條

上告ハ地方裁判所及ヒ陪審裁判所ノ判決ニ對シ爲スヲ得

第三百七十五條

判決前ニ係ル諸裁判ト雖モ其判決ノ理由トナル者ハ亦上告裁判所ノ判決ニ從フ者トス

第三百七十六條

上告ハ法律ヲ犯害スル判決ニ限リ爲スヲ得

法律ノ犯害トハ條則ノ一ニ全ク施行セサルカ或ハ其施行ノ不正ナルカノ時トス

第三百七十七條

判決ノ法律犯害ニ原因セル者ト見做ス可キ者ハ左ノ場合トス

第一　判決裁判所或ハ陪審席ヲ規則ニ從ヒ設置セサル時

第二　判決ノ際法律上ニ於テ除職シタル判事或ハ陪審或ハ參審ノ參與シタル時

第三　判事或ハ參審ヲ依怙ノ恐レ有ルカ爲メニ除職シタルカ或ハ請願ノ理由有ルカ爲メニ除廷シタルカ若クハ其請願却下ノ不正

ナルノ後ニ至リ判決ニ參與シタル時

第四　裁判所ニ於テ裁判權非屬ノ判決ヲ爲シタル時

第五　檢事ノ缺席中或ハ法律上出廷ス可キヲ要スル人ノ缺席中ニ本審ヲ行ヒタル時

第六　本審ノ公判規則ヲ犯害シタル口審ニ因リ判決ヲ爲シタル時

第七　判決ニ裁決理由絶テ無キ時

第八　裁決ノ要點ニ關スル辯護ヲ裁判所ノ決議ニ因リ制限シタル時

第三百七十八條

檢事ハ原判ニ於テ專ラ被訴人ノ利益ト爲ル法律規則ニ違犯スルヿ有ル時ハ之ニ付テ上告ヲ爲シ原判ノ破毀ヲ求ムルヿヲ得ルト雖モ被訴人ヲ害セントスルノ主意ヲ以テ上告ヲ爲シ破毀ヲ求ムルヿヲ得ス

第三百七十九條

陪審ニ於テ被訴人ヲ無罪ナリト決定シタル時檢事上告ヲ爲シ得可キ者ハ其理由第三百七十七條第一第二第三第四第五ノ定規或ハ問題下付ノ有無ニ原因セル時ニ限ル者トス

第三百八十條

控訴裁判所タル地方裁判所ニ於テ申渡シタル判決ニ對シ上告ヲ爲シ得可キ者ハ其理由第三百九十八條ニ於ケル手續規則ヲ犯害セルニ原因スルニ限ル者トス

第三百八十一條

上告ハ被爭判決ヲ爲シタル原裁判所ニ其申渡後一週內ニ於テ裁判書記ニ申立ヲ口供ニ記取セシメ或ハ書面ヲ以テ爲スヲ得

上告期限ハ判決ヲ被訴人ノ現在中ニ申渡シタル時ハ其交付ノ時ヲ以

テ起始ス

第三百八十二條

上告ノ期限ハ被訴人ノ缺席中ニ爲シタル判決ニ對シ復判ヲ申立テタルト雖モ之カ爲メニ支障無キ者トス

被訴人復判請願ヲ爲ス時其却下ノ場合ニ供センカ爲メニ正當ノ期限內直ニ上告ヲ差出シ其理由ヲ付スルニ非サレハ上告ハ無効ニ屬ス若シ其手續ヲ爲シタル時ハ上告ニ關スル爾後ノ命令ハ復判請願ノ結了後ニ至テ爲ス者トス

上告ニ復判請願ヲ附帶シテ差出サヽレハ其請願ハ棄却ト見做ス可シ

第三百八十三條

判決ノ不服ヲ申立ル爲メニ上告ヲ正當期限內ニ差出シタル時ハ其判決ヲ決行セサル者トス

理由ヲ付シタル判決書ヲ爰ニ交付セサル時ハ上告人ニ上告提起ノ後之ヲ交付ス可キ者トス

第三百八十四條

上告人ハ判決ニ不服ヲ申立其破毀ヲ求メントスルハ何等ノ點ニ在ルカヲ辯明シテ且ツ理由ヲ付セサル可カラス

理由書ハ治罪法規則或ハ他ノ規則ヲ犯害シタルカ爲メニ不服ヲ申立ルヤ否ヤ明瞭ナラシム可シ而シテ治罪法規則ヲ犯害シタルノ場合ニ在テハ缺欠ノ事蹟ヲ必ス記載セサル可カラス

第三百八十五條

上告ノ申立及ヒ其理由書ハ遲ク𪜈伸寃訴期限經過ノ後一週內ニ被爭判決ヲ爲シタル原裁判所ニ差出サヽル可カラス若シ其期限內ニ判決書ヲ交付セサル時ハ其交付後一週內ニ同裁判所ニ差出サヽル可カラ

ス

被訴人ニ在テハ前項ノ申立及ヒ理由ヲ辯護人若クハ代言人ノ手署シタル書類ヲ以テ或ハ裁判書記ニ口供ニ記取セシメテ爲スヲ得

第三百八十六條

上告ノ提起其期ニ後レタルカ或ハ申立其期ニ後レタルカ或ハ第三百八十五條第二項ノ手續ヲ爲サヽル時ハ原判裁判所ハ決議ヲ以テ其伸冤訴ヲ不當トシテ却下ス可キ者トス

上告人ハ此決議書交付ノ後一週內ニ上告裁判所ノ裁決ヲ請フヲ得此場合ニ在テハ原裁判所ハ證據書類ヲ上告裁判所ニ送致ス可キ者トス

然レ𪜈之カ爲メニ原判決ノ決行ハ停止セス

第三百八十七條

上告ヲ其期內ニ差出シ或ハ申立ヲ其期內ニ爲シ或ハ條則ノ手續ヲ爲シタル時ハ上告書類ハ上告人ノ對手ニ交付ス可キ者トス而シテ此對手ハ一週內ニ書面ヲ以テ答辯ヲ爲スヲ得

答辯書ヲ差出シタル後或ハ其期限ノ經過シタル後ハ檢事局ヲ以テ證據書類ヲ上告裁判所ニ送達セシム可シ

第三百八十八條

證據書類ヲ收受シタル裁判所ニテ伸冤訴ニ就テノ本審及ヒ裁決他ノ裁判所ノ權限ニ屬スルヿヲ檢出スル時ハ決議ヲ以テ其權限非屬ヲ申渡ス可シ

所屬上告裁判所ノ記載ヲ要スル前項ノ決議ニ就テハ不服ヲ申立ルヲ得ス而シテ其決議ハ同裁判所ノ爲メニ効用ヲ有スル者トス

證據書類ハ檢事局ヨリ回送ス可キ者トス

第三百八十九條

上告裁判所ニ於テ上告差出規則或ハ其中立規則ヲ履行セスト認定スル時ハ決議ヲ以テ其伸寃訴ヲ不當トシテ却下スルヲ得

若シ却下セサル時ニハ伸寃訴ニ就テノ判決ヲ爲ス可キ者トス

第三百九十條

被訴人ニハ本審ノ日ヲ告知ス可ク又其請ヒニ依リ辯護人ニモ之ヲ告知ス可キ者トス而シテ被訴人ハ本審中自カラ出廷シ或ハ全權證ヲ付シタル辯護人ニ代理セシムルヲ得

收監ヲ受ケシ被訴人ハ出廷ヲ要求スルノ權無シ

第三百九十一條

本審ハ說明者ノ解明ヲ以テ始ム

其次ニハ檢事並ニ被訴人及ヒ辯護人ニ其辯明及ヒ申立ヲ訊問ス可ク

就中最初ニ上告原告ヲ訊問ス可シ而シテ被訴人ハ最終答辯ノ權ヲ有ス

第三百九十二條

上告裁判所ハ只上告ニ就テノ申立ノミヲ審査スル者トス但シ上告手續ノ缺欠ニ原由スル時ニ限リ其申立ノ際證明シタル事蹟ヲ審査スル者トス

第三百八十四條第二項ノ條則ヨリ他ニ關スル上告申立ニ就テノ理由ハ不要トス又其理不當ナルモ害ヲ被ルヿ無キ者トス

第三百九十三條

上告ヲ理由有リト認定スルニ於テハ被爭原判ヲ破毀ス可キ者トス

原判ノ理由ト爲ル可キ決定ノ事件法律ヲ犯害シタルカ爲メニ原判ヲ破毀ス可キ時ハ同時ニ亦其事件ヲ破毀ス可キ者トス

第三百九十四條

判決ノ理由ト爲ル可キ決定事件ニ基ツキ擬律スルニ方リ刑法ヲ犯害シタル爲メニ原判ヲ破毀スル時上告裁判所ニ於テ自カラ裁決ス可キ者ハ復タ事蹟上ノ解明ヲ要セスシテ只無罪ノ申渡ヲ爲ス可キカ或ハ停止或ハ單ニ科ス可キ刑（民權剝奪或ハ警察監視等ノ附帶ノ刑無キ者ヲ謂フ）ヲ申渡ス可キ時ニ限ル者トス或ハ檢事局ノ承諾ニ因リ刑法上至輕ノ刑ヲ科ス可シト思料スル時モ亦同シ

此他ノ場合ニ在テハ再本審及ヒ再裁決ヲ爲サシム可キ爲メニ判決ヲ破毀セラレシ原裁判所ニ上告事件ヲ還付ス可ク或ハ同聯邦國（原裁判所ト同キヲ謂フ例之ハ原裁判所普國ニ屬スレハ即チ普國ヲ謂フ）ニ屬スル隣地ノ同位裁判所ニ轉移ス可キ者トス

此轉移ハ下位ノ裁判所（原判ヲ爲シタル裁判所ヨリ下位ヲ謂フ）ニモ亦爲スヲ得但シ再審ス可キ犯罪其裁判所ノ權ニ屬スル時トス

第三百九十五條

上告裁判所ハ原判ヲ爲シタル裁判所ニ於テ裁判權非屬ノ判決ヲ爲シタルカ爲メ之ヲ破毀ス可キ時ハ所屬裁判所ニ其事件ヲ轉移スル者トス

第三百九十六條

判決ノ申渡ハ第二百九十六條ノ定規ニ從フ可キ者トス

第三百九十七條

擬律ノ際刑法ヲ犯害シタルニ因リ被訴人ノ爲メニ原判ヲ破毀シ而シテ其判決上告ヲ爲サヽル他ノ係累被訴人ニモ亦効力ヲ及ホス者ナル時ハ此被訴人モ亦同一ニ上告ヲ爲シタル者ト見做シ之ニ對シテ判決申渡ヲ爲ス可キ者トス（係累被訴人ハ主タル被訴人ト共ニ訴ヲ受ケタル者）

第三百九十八條

上告事件ヲ再審及ヒ裁決ノ爲メニ轉移ヲ受ケタル裁判所ハ破毀ノ原由タル法理上ノ確定ヲ以テ亦其裁決ノ原由ト爲ス可キ者トス

原判不服ノ申立ヲ被訴人ヨリ或ハ被訴人ノ爲メニ檢事若クハ第三百四十條ニ記シタル人ノ一名ヨリ爲シタル時ハ再判決ハ原判ヨリ重刑ニ處スルヲ得ス

第四卷　確定裁判ノ再吟味

確定裁判ハ判決申渡ノ如ク刑ヲ決行シタル者ヲ謂フ凡ソ再吟味トハ確定裁判ヲ以テ既ニ被訴人ヲ刑ニ處シタル後ト雖モ審判上引證正カラス或ハ證書眞ナラス或ハ證人ヲ供ノ僞ナルヿ發見スル時ハ更ニ同刑事ニ就キ再吟味ヲ開始シ其他代言人判事陪審參審若クハ檢事ニ就テ刑法中制定ノ義務ヲ犯シタルヿ發見スル時モ亦同シ是レ其大意ナリ

第三百九十九條

確定裁判ノ再吟味ハ左ノ場合ニ在テ被決者ヲ利スル爲メニ行フ者トス

第一　本審中被決者ヲ罪ス可キ爲メ正當ノ者トシテ差出シタル證書虛構或ハ僞造ナリシ時

第二　被決者ヲ罪ス可キ爲メニ表出シタル立證ニ就キ或ハ證人若クハ鑑定人ノ斷案ニ就テノ誓約ニ依リ故意或ハ過誤ニテ誓約義務ヲ犯害スルノ罪ヲ犯シタル時

第三　判決ニ參與シタル判事陪審或ハ參審罪件ニ就テ其職務上義務ヲ犯害スルノ罪ヲ犯シタル時但シ其犯害ハ治罪法手續ニ因リ刑法上ノ刑ヲ科ス可キ者ニシテ被決者其犯害ヲ行ハシムルノ原由ヲ引起セルニ非サル時ニ限ル

第四　刑事判決ノ因テ起ル民事判決ヲ他ノ確定裁判ニ依テ廢棄シタル時

第五　新タニ發起スル事蹟若クハ證據物ヲ表出シタルニ由リ單ニ之ヲ以テシ或ハ以前ノ立證ト連帶シテ被訴人ニ無罪ノ申渡ヲ爲ス可ク或ハ刑法上酌量法ヲ擬シ輕刑（既決ノ刑ヨリ）ヲ科ス可キ理由有ル時又參審裁判所ニ於テ審判シタル事件ニ在テ被決者ノ表出スル可キ事蹟若クハ證據物ヲ初審裁判並ニ再審裁判ニ於テ未タ之ヲ知了セサリシカ或ハ之ヲ證明セントスレハ他人ニ罪ヲ歸セサルヲ得サリシ時ニ限ル者トス

第四百條

確定裁判ノ再吟味ヲ申立ルト雖モ之ニ因テ判決ノ決行ヲ支障スルノ効力無キ者トス

然レトモ裁判所ハ決行ヲ延滯シ或ハ中止ヲ命スルヲ得

第四百一條

再吟味ノ申立ハ既ニ決行シ或ハ被決者死亡スルモ猶ホ之ヲ爲スヲ得」被決者死亡ノ場合ニ在テハ其配耦者尊屬及ヒ卑屬ノ者並ニ兄弟姉妹再吟味申立ノ權ヲ有ス

第四百二條

確定裁判ノ再吟味ハ左ノ場合ニ在テ被訴人ノ不利ノ爲メニ行フ者トス

第一　再審中被訴人ヲ利スル爲メニ正當ノ者トシテ差出シタル證書虚構或ハ僞造ナル時

第二　被訴人ヲ利スル爲メニ表出シタル證據ニ就キ或ハ證人若ク鑑定人ノ斷案ニ就テノ誓約ニ依リ故意或ハ過誤ニテ誓約義務犯害ノ罪ヲ犯シタル時

第三　判決ニ參與シタル判事陪審或ハ參審罪件ニ就テ其職務上義務ヲ犯害スルノ罪ヲ犯シタル時但シ其犯害ハ治罪法手續ニ因テ刑法上ノ刑ヲ科ス可キ者ナル時

第四　無罪ノ申渡ヲ受ケタル人裁判所或ハ裁判所外ニテ犯罪ニ就キ信認ス可キ首實ヲ爲ス時

第四百三條

先ニ擬用シタルト同律例ニ因リ定メタル刑ノ輕重内ニテ復タ之ヲ變更センストスルノ主意ヲ以テ再吟味ヲ爲スヲ得ス

第四百四條

犯罪ノ所行ヲ確定スル再吟味ノ申立ヲ許ス者ハ其所行ニ付キ確定裁判ヲ申渡シタルカ或ハ專ラ收證ニ缺欠有ルカ爲メニ吟味ヲ執行ス可キ時ノコミ限ル者トス

第四百五條

伸寃訴ノ總則ハ再吟味申立ニモ亦適用ス可キ者トス

第四百六條

其申立中ニハ再吟味ニ就テノ法律上理由並ニ證據物ヲ證明セサル可カラス

其申立ハ只辯護人或ハ代言人一名ノ手署セシ書類ヲ以テ被訴人及ヒ第四百一條中第二項ニ記載セシ人ノ一名ヨリ差出ヲ得或ハ其申立ヲ

裁判書記ニ口供中ニ記取セシムルモ妨ケ無キ者トス

第四百七條

再吟味申立ノ許否ハ其被爭判決ヲ爲シタル原裁判所ニ於テ裁決ス若シ上告裁判所ニテ申渡シタル判決ヲ第三百九十九條中第三或ハ第四百二條中第三ノ事由ヨリ他ノ事由ニ原因シ不服ヲ申立ル時ハ上告ニ就キ被爭判決ヲ爲シタル原裁判所ニ於テ裁決ス

此裁決ハ口審ヲ要セス

第四百八條

再吟味ノ申立前條ノ手續ヲ履行セス或ハ其申立中ニ再吟味ヲ爲ス可キ法律上ノ事由無ク或ハ正當ノ證據物ヲ出サヽリシ時ハ不當トシテ却下ス可キ者トス

却下セサル場合ニ在テハ其申立書ハ被訴人ノ對手ニ辯明セシム可キ

爲メニ期限ヲ定メテ交付ス可キ者トス

第四百九條

裁判所ニ於テ其申立ヲ理由有リトシテ受理スル時ニ方リ收證ヲ必要ナリトスルニ於テハ判事ニ委任シテ證據ヲ收取セシム

證人及ヒ鑑定人ヲ誓約ノ上ニテ訊問スルト否トハ裁判所ノ意見ニ任ス

原被及ヒ辯護人等收證ニ立會ヲ爲ス權ニ就テハ豫審手續規則ヲ施行ス可シ

收證結了ノ後ハ期限ヲ定メテ檢事及ヒ被訴人ニ前審ヨリ他ノ辯明ヲ爲サシムルヲ要ス

第四百十條

申立中ニ主張スル點確實ナリト認定ス可カラサルカ或ハ第三百九十